

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
設置者	ガッコウホリゾン コシハラガクエン 学校法人 越原学園									
大学の名称	ナゴヤウシダイク 名古屋女子大学 (Nagoya Women's University)									
大学本部の位置	名古屋市瑞穂区汐路町3丁目40番地									
大学の目的	名古屋女子大学は、教育基本法、学校教育法にのっとり女性最高の教育機関として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を養い、もって、文化の向上、社会福祉の増進に貢献し得る有為の女性を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	地域住民の健康の維持と増進、疾病と障害の予防に対し、専門知識と技能を生かして社会貢献できる、また、人を思いやる心を持って医療専門的能力を発揮できる女性の理学療法士と作業療法士の養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医療科学部 [Faculty of Medical Science]	年	人	年次人	人		年月 第年次	名古屋市瑞穂区汐路町3丁目40番地		
	理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	4	50	—	200	学士 (理学療法学) 【Bachelor of Physical Therapy】	令和4年4月 第1年次	同上		
	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4	30	—	120	学士 (作業療法学) 【Bachelor of Occupational Therapy】	令和4年4月 第1年次	同上		
	計		80	—	320					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	文学部 児童教育学科児童教育学専攻〔定員減〕(△40) (令和4年4月) 児童教育学科幼児保育学専攻〔定員減〕(△40) (令和4年4月) 名古屋女子大学短期大学部生活学科〔定員減〕(△10) (令和4年4月) 保育学科第一部〔定員減〕(△50) (令和4年4月) 保育学科第三部〔定員増〕(40) (令和4年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	医療科学部理学療法学科	69科目	42科目	9科目	120科目	127単位				
	医療科学部作業療法学科	69科目	42科目	9科目	120科目	130単位				
教員の組織概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	医療科学部 理学療法学科		5人 (4)	3人 (1)	4人 (4)	2人 (0)	14人 (9)	1人 (1)	79人 (18)
		作業療法学科		4 (2)	2 (2)	1 (1)	3 (1)	10 (6)	2 (2)	82 (21)
		計		9 (6)	5 (3)	5 (5)	5 (1)	24 (15)	3 (3)	— (—)
	既存	家政学部 生活環境学科		10 (10)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	44 (44)
		健康科学部 健康栄養学科		6 (6)	2 (2)	8 (8)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	84 (66)
		健康科学部 看護学科		10 (10)	3 (3)	12 (11)	5 (5)	30 (29)	3 (3)	69 (59)
		文学部 児童教育学科 児童教育学専攻		8 (8)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	45 (45)
		文学部 児童教育学科 幼児保育学専攻		3 (3)	4 (4)	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	52 (52)
	計		37 (37)	20 (20)	32 (31)	9 (9)	98 (97)	3 (3)	— (—)	
合計		47 (44)	24 (22)	37 (36)	13 (10)	121 (112)	5 (5)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		39 (39)	10 (10)	49 (49)					
	技 術 職 員		17 (17)	7 (7)	24 (24)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	7 (7)	10 (10)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	21 (21)	21 (21)					
	計		59 (59)	45 (45)	104 (104)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	名古屋女子大学 短期大学部と共 用 5,600㎡				
	校 舎 敷 地	1,391㎡	11,431㎡	0㎡	12,822㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	25,000㎡	0㎡	25,000㎡					
	小 計	1,391㎡	37,822㎡	0㎡	37,822㎡					
	そ の 他	0㎡	26,846㎡	0㎡	26,846㎡					
	合 計	1,391㎡	63,277㎡	0㎡	64,668㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	名古屋女子大学 短期大学部と共 用 4,600㎡				
		19,544㎡ (19,544㎡)	28,331㎡ (28,331㎡)	0㎡ (0㎡)	47,875㎡ (47,875㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	41室	24室	85室	9室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		医療科学部		24 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	医療科学部	31,331 [2,674] (30,294 [2,578])	145 [51] (134 [51])	36 [36] (26 [26])	566 (550)	673 (673)	84 (84)			
	計	31,331 [2,674] (30,294 [2,578])	145 [51] (134 [51])	36 [36] (26 [26])	566 (550)	673 (673)	84 (84)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		3285.45㎡	438	310,000						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		1,642㎡	練習室	多目的室 (2室)						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。また、開設前前年度に11,800千円を購入している。 ・設備購入費は、前前年度に55,125千円を購入している。
		教員1人当たり研究費等		330千円	330千円	330千円	330千円	-	-	
		共同研究費等		1,020千円	1,020千円	1,020千円	1,020千円	-	-	
		図書購入費	200千円	-	-	-	-	-	-	
	設備購入費	255,184千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	1,000千円	-	-		
	学生1人当たり納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			1,630千円	1,430千円	1,430千円	1,430千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料収入								

既設大学等の状況	大学の名称	名古屋女子大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
既設大学等の状況	家政学部	年	人	年次人	人		倍		名古屋市瑞穂区 汐路町3丁目40番地	平成31年度より 学生募集停止
	食物栄養学科	4	—	—	—	学士 (食物栄養学)	—	平成7年度		
	生活環境学科	4	80	—	320	学士 (生活環境学)	1.04	平成12年度		
	家政経済学科	4	—	—	—	学士 (家政経済学)	—	平成21年度	同上	平成31年度より 学生募集停止
	健康科学部									
	健康栄養学科	4	160	—	640	学士 (健康栄養学)	0.88	平成31年度		
	看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.03	平成31年度	同上	平成31年度開設
	文学部									
	児童教育学科	4	280	—	1120		0.75	昭和63年度		
	児童教育学専攻	4	120	—	480	学士 (児童教育学)	0.61	平成13年度	同上	平成31年度開設
	幼児保育学専攻	4	160	—	640	学士 (幼児保育学)	0.85	平成13年度		
	大学院								同上	
生活学研究科						0.33				
食物栄養学専攻	2	6	—	12	修士 (食物栄養学)	0.33	平成17年度			
既設大学等の状況	大学の名称	名古屋女子大学短期大学部							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	生活学科	2	100	—	200	短期大学士 (生活学)	1.00	平成2年度	名古屋市瑞穂区 汐路町3丁目40番地	
	保育学科	2・3	200	—	450	短期大学士 (保育学)	0.75	平成17年度		
	第一部	2	150	—	300		0.58	平成17年度	同上	
第三部	3	50	—	150		1.08	平成30年度			
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(医療科学部理学療法学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
人間形成科目	建学のこころ	1前	1			○								兼1
	総合女性学	1・2後		2		○								兼1
	キャリア入門	1・2後		2		○								兼1
	小計(3科目)	—	1	4		—								兼3
一般教育科目	哲学の方法	2・3前		2		○								兼1
	心のしくみ	1・2後		2		○								兼1
	文学の表現と鑑賞	2・3前		2		○								兼1
	歴史に学ぶ	2・3後		2		○								兼1
	国際事情	1・2前		2		○								兼1
	日本国憲法	1・2後		2		○								兼1
	くらしの経済	1・2前		2		○								兼1
	生活と地理	1・2前		2		○								兼1
	数学の世界	2・3後		2		○								兼1
	一般化学	1・2前		2		○								兼1
	生命のしくみ	1・2前		2		○								兼1
	生活の物理	1・2後		2		○								兼1
	地球環境と人間	1・2後		2		○								兼1
初年次セミナー	1前	2			○								兼1	
小計(14科目)	—	2	26		—								兼12	
芸術科目	音楽	2・3前		1			○							兼1
	美術	2・3後		1			○							兼1
	書道	2・3後		1			○							兼1
	小計(3科目)	—		3		—								兼3
外国語科目	Basic English 1	1前	1				○							兼2
	Basic English 2	1後	1				○							兼2
	Advanced English 1	2前		1			○							兼1
	Advanced English 2	2後		1			○							兼1
	総合英語A-1	1前	1				○							兼2
	総合英語A-2	1後	1				○							兼2
	総合英語B-1	2前		1			○							兼1
	総合英語B-2	2後		1			○							兼1
	初級フランス語1	1・2前		1			○							兼1
	初級フランス語2	1・2後		1			○							兼1
	中級フランス語	2・3前		1			○							兼1
	初級中国語1	1・2前		1			○							兼1
	初級中国語2	1・2後		1			○							兼1
中級中国語	2・3前		1			○							兼1	
小計(14科目)	—	4	10		—								兼10	
情報・表現科目	情報処理演習1	1前		1			○							兼1
	情報処理演習2	1後		1			○							兼1
	日本語表現法1	1前		1			○							兼1
	日本語表現法2	1後		1			○							兼1
小計(4科目)	—		4		—								兼4	
健康・体育科目	健康科学	1・2前		2		○								兼1
	スポーツ1	1・2前		1				○						兼1
	スポーツ2	1・2後		1				○						兼1
	小計(3科目)	—		4		—								兼2
学部学科間共通科目	基礎生物学	1後		2		○								兼1
	情報処理概論	1前		2		○								兼1
	基礎統計処理	1後		2		○								兼1
	口腔健康管理学	1後		2		○								兼1
	ライフステージ栄養学1	2後		1		○								兼1
	緩和ケア論	3前		1		○								兼1
	災害看護論	3後		1		○								兼1
	小計(7科目)	—		11		—								兼7
学部学科間共通科目	基礎ゼミナール	1後	1				○		3	3	4	2		兼9 共同(一部)
	リハビリテーション医学	2前	1			○								兼1
	健康増進とリハビリテーション	3後	2			○			3	3	4	1		兼8 共同(一部)
	女性の健康	3後	1			○			1					兼4 オムニバス
	教育学	2前	2			○								兼1
	教育方法論	4後		2		○								兼1
小計(6科目)	—	7	2		—			4	3	4	2		兼16	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
と機能及び心身の発達 人体の構造	解剖学Ⅰ	1前	2			○			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1				○		1						
	解剖学実習	2前	1					○	1						
	生理学Ⅰ	1前	2			○			1						
	生理学Ⅱ	1後	1				○		1						
	生理学実習	2前	1					○	1						
	人間発達学	1後	2			○									兼1
	基礎運動学	1後	2			○			1						
	基礎運動学演習	2前	1				○			1					
	臨床心理学	1後	1			○									
小計(10科目)	—	—	14			—			3	1					兼2
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学概論	1後	1			○									兼2 オムニバス
	病理・感染学	1後	2			○									兼1
	整形外科学	2前	2			○									兼1
	神経内科学	2前	2			○									兼1
	老年医学	2前	1			○									兼1
	精神医学	2前	2			○									兼1
	内科学	2後	2			○									兼1
	小児科学	2後	1			○									兼1
	臨床検査診断概論	3前	1			○									兼2 オムニバス
	臨床栄養学1	3後	1			○									兼1
	災害医療	3後	1			○									兼2 オムニバス
小計(11科目)	—	—	16			—									兼11
福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1後	1			○			1						兼2 オムニバス
	生命倫理学	1後	1			○									兼1
	公衆衛生学	2前	1			○									兼1
	チーム医療連携論	3前	1			○					1				兼3 オムニバス
	保健医療福祉制度	3後	1			○									兼1
小計(5科目)	—	—	5			—			1	1					兼8
基礎理学療法学	理学療法学概論	1後	2			○					1				兼2 オムニバス
	機能障害病態論	2前	2			○			1						
	理学療法学研究法	3前	1			○			1						
	理学療法学研究法演習	3後	1				○		2	3	4	2			共同
	理学療法卒業研究	4通	4				○		3	3	4	2			共同
	小計(5科目)	—	—	10			—		3	3	4	2			兼2
理学療法管理学	理学療法管理学	3前	2			○					1				
	小計(1科目)	—	—	2		—					1				
理学療法評価学	理学療法評価学	2前	1			○					2				オムニバス
	運動器障害理学療法評価学演習	2前	1				○					1			兼1 オムニバス
	神経障害理学療法評価学演習	2後	1				○			1					
	内部障害理学療法評価学演習	2後	1				○				1				兼1 オムニバス
	理学療法動作分析学演習	2後	1				○			1					
	理学療法評価学総合演習Ⅰ	3後	1				○		1		1				オムニバス
	理学療法評価学総合演習Ⅱ	4前	1				○				2				オムニバス
小計(7科目)	—	—	7			—		1	2	3	1			兼2	
理学療法専門分野科目	基礎運動療法学	2前	1				○				1				
	運動器障害理学療法学	3前	2			○				1					
	運動器障害理学療法学演習	3後	1				○			1					
	神経筋障害理学療法学	3前	2			○				1					兼1 オムニバス
	神経筋障害理学療法学演習	3後	1				○		1	1					オムニバス
	内部障害理学療法学	3前	2			○			1						兼1 オムニバス
	内部障害理学療法学演習	3後	1				○		1		1				オムニバス
	スポーツ障害理学療法学	3前	1			○				1					
	発達障害理学療法学演習	3後	1				○			1					兼1 オムニバス
	老年期障害理学療法学	2後	2			○			1						
	義肢装具学	2後	1			○									兼1
	義肢装具学演習	3前	1				○			1					兼1 オムニバス
	物理療法学	2前	2			○						1			
	物理療法学演習	2後	1				○					1			
日常生活活動学	1後	2			○						1			兼1 オムニバス	
理学療法学セミナー	4後	1				○		1		1				オムニバス	
理学療法治療学特論Ⅰ(健康増進・予防)	2後		1		○			1							
理学療法治療学特論Ⅱ(中枢神経障害)	2後		1		○				1						
理学療法治療学特論Ⅲ(内部障害)	3前		1		○			1							
理学療法治療学特論Ⅳ(脳機能)	3前		1		○			1							
小計(20科目)	—	—	22	4			—		3	3	2	2			兼4
学地域療法	地域理学療法学	2前	2			○						1			兼1 オムニバス
	地域理学療法学演習	2後	1				○					1			兼1 オムニバス
	小計(2科目)	—	—	3			—					1			兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
理学療法専門 分野科目	見学実習	1後	1					○	3	3	4	2		共同
	理学療法評価学実習	2後	4					○	3	3	4	2		共同
	総合臨床実習Ⅰ	3後	6					○	3	3	4	2		共同
	総合臨床実習Ⅱ	4前	8					○	3	3	4	2		共同
	地域理学療法臨床実習	4前	1					○	3	3	4	2		共同
	小計(5科目)	—	20						3	3	4	2		
合計(120科目)		—	113	68			—		5	3	4	2		兼79
学位又は称号		学士(理学療法)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
学生は4年以上在学し、「全学共通科目」で必修7単位を含めて14単位以上、「学部 学科間共通科目」・「専門基礎分野科目」・「理学療法専門分野科目」で必修106単位 を含めて113単位以上修得し、合計127単位以上修得すること。								1学年の学期区分			2学期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要														
(医療科学部作業療法学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
人間形成科目	建学のこころ	1前	1			○								兼1
	総合女性学	1・2後		2		○								兼1
	キャリア入門	1・2後		2		○								兼1
	小計(3科目)	-	1	4		-								兼3
一般教育科目	哲学の方法	2・3前		2		○								兼1
	心のしくみ	1・2後		2		○								兼1
	文学の表現と鑑賞	2・3前		2		○								兼1
	歴史に学ぶ	2・3後		2		○								兼1
	国際事情	1・2前		2		○								兼1
	日本国憲法	1・2後		2		○								兼1
	くらしの経済	1・2前		2		○								兼1
	生活と地理	1・2前		2		○								兼1
	数学の世界	2・3後		2		○								兼1
	一般化学	1・2前		2		○								兼1
	生命のしくみ	1・2前		2		○								兼1
	生活の物理	1・2後		2		○								兼1
	地球環境と人間	1・2後		2		○								兼1
	初年次セミナー	1前	2			○								兼1
小計(14科目)	-	2	26		-								兼12	
芸術科目	音楽	2・3前		1			○							兼1
	美術	2・3後		1			○							兼1
	書道	2・3後		1			○							兼1
	小計(3科目)	-		3		-								兼3
外国語科目	Basic English 1	1前	1			○								兼2
	Basic English 2	1後	1			○								兼2
	Advanced English 1	2前		1		○								兼1
	Advanced English 2	2後		1		○								兼1
	総合英語A-1	1前	1			○								兼2
	総合英語A-2	1後	1			○								兼2
	総合英語B-1	2前		1		○								兼1
	総合英語B-2	2後		1		○								兼1
	初級フランス語1	1・2前		1		○								兼1
	初級フランス語2	1・2後		1		○								兼1
	中級フランス語	2・3前		1		○								兼1
	初級中国語1	1・2前		1		○								兼1
	初級中国語2	1・2後		1		○								兼1
	中級中国語	2・3前		1		○								兼1
小計(14科目)	-	4	10		-								兼10	
情報・表現科目	情報処理演習1	1前		1		○								兼1
	情報処理演習2	1後		1		○								兼1
	日本語表現法1	1前		1		○								兼1
	日本語表現法2	1後		1		○								兼1
	小計(4科目)	-		4		-								兼4
健康科目 体育・健康科目	健康科学	1・2前		2		○								兼1
	スポーツ1	1・2前		1				○						兼1
	スポーツ2	1・2後		1				○						兼1
	小計(3科目)	-		4		-								兼2
学部学科間共通科目	基礎生物学	1後		2		○								兼1
	情報処理概論	1前		2		○								兼1
	基礎統計処理	1後		2		○								兼1
	口腔健康管理学	1後		2		○								兼1
	ライフステージ栄養学1	2後		1		○								兼1
	緩和ケア論	3前		1		○								兼1
	災害看護論	3後		1		○								兼1
	小計(7科目)	-		11		-								兼7
学科間共通科目	基礎ゼミナール	1後	1				○		3	2	1	3		兼12 共同(一部)
	リハビリテーション医学	2前	1			○			1					
	健康増進とリハビリテーション	3後	2			○			3	2	1			兼13 共同(一部)
	女性の健康	3後	1			○			1			1		兼3 オムニバス
	教育学	2前	2			○								兼1
	教育方法論	4後		2		○								兼1
小計(6科目)	-	7	2		-			4	2	1	3		兼19	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			○									兼1	
	解剖学Ⅱ	1後	1				○								兼1	
	解剖学実習	2前	1					○							兼1	
	生理学Ⅰ	1前	2			○									兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1					○							兼1	
	生理学実習	2前	1						○						兼1	
	人間発達学	1後	2			○									兼1	
	基礎運動学	1後	2			○				1						
	基礎運動学演習	2前	1					○		1						
	臨床心理学	1後	1			○										兼1
小計(10科目)	-	14					-		1						兼4	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学概論	1後	1			○				1					兼1	オムニバス
	病理・感染学	1後	2			○									兼1	
	整形外科学	2前	2			○				1						
	神経内科学	2前	2			○									兼1	
	老年医学	2前	1			○									兼1	
	精神医学	2前	2			○									兼1	
	内科学	2後	2			○									兼1	
	小児科学	2後	1			○									兼1	
	臨床検査診断概論	3前	1			○				1					兼1	オムニバス
	臨床栄養学Ⅰ	3後	1			○									兼1	
災害医療	3後	1			○									兼2	オムニバス	
小計(11科目)	-	16					-		1						兼10	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1後	1			○				2					兼1	オムニバス
	生命倫理学	1後	1			○									兼1	
	公衆衛生学	2前		1		○									兼1	
	チーム医療連携論	3前	1			○					1				兼3	オムニバス
	保健医療福祉制度	3後	1			○									兼1	
小計(5科目)	-	4	1				-		2		1				兼7	
基礎作業療法学	作業療法学概論	1前	2			○				2					兼1	オムニバス
	基礎作業療法学	1後	1			○					1					
	基礎作業療法学演習	3後	1				○					1				
	研究法概論	3前	1			○				1						
	研究法演習	3後	1				○			3	2	1	3			共同
	卒業研究	4後	2				○			3	2	1	3			共同
	小計(6科目)	-	8					-		3	2	1	3			兼1
	作業療法管理学	3前	2			○				1						
	小計(1科目)	-	2					-		1						
	作業療法評価学	作業療法評価学	2前	1			○				1					
作業療法評価学演習Ⅰ		2前	1				○			1						
作業療法評価学演習Ⅱ		2前	1				○			1		1				オムニバス
作業療法評価学演習Ⅲ		2後	1				○			1						
作業療法動作分析学演習		2後	1				○			1						
作業療法学総合演習Ⅰ		3前	1				○			3	2	1	3			共同
作業療法学総合演習Ⅱ		3後	1				○			3	2	1	3			共同
小計(7科目)		-	7					-		3	2	1	3			
作業療法専門分野科目	身体障害作業療法学Ⅰ	3前	2			○				1						
	身体障害作業療法学Ⅱ	3前	1			○				1					兼1	オムニバス
	身体障害作業療法学演習	3後	1				○			1						
	義肢装具学	3前	1			○									兼1	
	義肢装具学演習	3後	1				○								兼1	
	精神障害作業療法学	2後	2			○						1				
	精神障害作業療法学演習	3前	1				○					1				
	発達障害作業療法学	2後	2			○						1				
	発達障害作業療法学演習	3前	1				○					1				
	老年期作業療法学	2後	2			○				1						
	高次脳機能障害作業療法学	2後	2			○				1						
	高次脳機能障害作業療法学演習	3後	1				○			1						
	日常生活活動学	2前	1			○				1						
	日常生活活動学演習	2後	1				○			1						
	作業療法セミナー	4後	1				○			3	2	1	3			オムニバス
作業療法治療学特論Ⅰ(学校・仕事)	2後		1		○						2			兼2	オムニバス	
作業療法治療学特論Ⅱ(生活・環境)	3前		1		○					2				兼1	オムニバス	
作業療法治療学特論Ⅲ(内部疾患)	3後		1		○					1						
小計(18科目)	-	20	3				-		3	2	1	3			兼4	
地域作業療法学	地域作業療法学	2前	2			○					1					
	地域作業療法学演習	2後	1				○				1	1				オムニバス
	予防的作業療法学	3後	1			○				1		1				オムニバス
	小計(3科目)	-	4					-		1		1	1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
作業療法専門 分野科目 臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	1後	1					○	3	2	1	3		共同
	臨床実習Ⅱ（地域実習）	2後	2					○	3	2	1	3		共同
	臨床実習Ⅲ（評価実習）	3後	6					○	3	2	1	3		共同
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	4前	8					○	3	2	1	3		共同
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	4前	8					○	3	2	1	3		共同
	小計（5科目）	—	25						3	2	1	3		
合計（120科目）		—	114	68				—	4	2	1	3		兼82
学位又は称号		学士(作業療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
学生は4年以上在学していること。 「全学共通科目」「学部学科間共通科目」については、必修14単位、選択15単位以上を修得し、「専門基礎分野科目」「作業療法専門分野科目」については、必修100単位、および選択1単位以上を修得し、合計130単位以上修得すること。						1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(医療科学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	建学のこころ	(1) 本学創設者の生家に隣接する越原学舎で学ぶことにより、学園訓「親切」の意義と「建学の精神」を理解し、本学の教育理念・目的について認識を深める。 (2) 共同生活を通じて自己を啓発するとともに、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、4年間の学習の目標を立て、その設計を確かなものとする。	
	総合女性学	女の上に男をつくらず、女の下に男をつくらず。真の平等とは何か。金銭や自己欲求や束の間の名誉のためではなく、人間として社会人としてあるべき姿を求めて女性学を学ぶ。 ▼名女大創設者越原春子の志である『女性が学問にはげむことが社会的自立の道であり、文化の向上に繋がる。女性自らの努力による男女平等の実現。そのためには、女性が高い教養と職能をつけ、経済的に自立する必要がある。』をもって講義する。 ▼世界経済フォーラム(WEF)が男女の間にどれくらい格差があるかの「ジェンダーギャップ指数」の報告書を毎年出すのは、男女平等が経済成長につながると考えているからである。候補者を男女同数にするよう政党に求める候補者男女均等法・女性活躍推進法が制定され、121位の日本が遅ればせながら変わろうとしている。女性だけでなく男性も「おかしい？」と声をあげられる社会に変えていかないとけない。違いが増えれば異論が増え、それが新しい価値を生んでいく。 ▼SDGs2030では、サステナブルな開発目標のひとつに「5ジェンダー平等を実現しよう」が挙げられている。 ▼今でも「男だから？女なの？」などの言葉を耳にする。ジェンダー平等を求めた道のりを歴史から学び、「女(男)であることに縛られることなく、自分の可能性を信じ、チャレンジしよう」と一歩前に踏み出すことを応援する社会」にしていきたい。 ▼次の3点を基本姿勢に総合女性学を講義する。1 言いたいことは我慢しない。2 動かなければ何も変わらない。3 慣習やしがらみにとらわれない。	
	キャリア入門	本講義は以下の3つを目的とする。①社会に貢献できるよき職能人としての一歩を踏み出すために、仕事以外の私生活を含めたキャリア形成について広く深く学び、必要な知識と技能を習得する。②ワークとライフ両方の自身のキャリア目標を立ててその実現のために在学中に何をなすべきか、具体的な行動目標計画をたてる。③様々な職業人の実際に活躍する姿に触れて視野を広げるとともに、どんな職業においても必要となる基礎的なコミュニケーション力を向上させる。多彩な分野で働く女性や仕事と私生活のワークライフバランスに関するドキュメンタリー番組の視聴、現代社会の法律や制度に関する資料とワークシート、グループディスカッションなど様々な手法により、医療従事者としてのみならず、一人の女性として、豊かな人生を送るための礎を築くことを目指す。	
一般教育科目	哲学の方法	予測不能の時代のなかで学生が自ら考え、正解がないかもしれない問題に自分なりの答えを見つけ、自立して行動するための助けになることを期待して、この授業は、2500年もの歴史を持つ哲学が用いてきた方法を参考にして、「自ら考える」こと、それ自体を目的とする。授業では、毎回4000字ほどのテキストを読む。その際に学生は、予習で調べてきた言葉の意味を発表し、内容の要旨を発表し、内容の事実部分についての関連知識や連想した自分の体験などを意見交換し、内容の意見部分について感じた疑問・反論・共感などを意見交換して、自分の思考を深める。	
	心のしくみ	知覚、学習、記憶、認知、性格、情動、発達、臨床、社会など、心理学を理解する上での基礎的な知識を学ぶ。日常生活場面で生じるさまざまな心のメカニズムを理解することを目的とし、これまでの先行研究を提示したり、実際に心理尺度に取り組んだりしながら、私たちの生活を取り巻く現象を解き明かしていく。授業を通して、日常生活における人間のさまざまな行動をより豊かな視点で論理的に説明する力を育み、それらの理論を理解する過程で自己理解も深めていくことを目指す。	
	文学の表現と鑑賞	文学を読むことを楽しむにはどんな方法があるか。魅力的な表現を味わうには能力が必要か。それらの側面から文学の面白さ・深さを、活字だけでなく映像を利用して、感じたり、考えたり、味わいながら文学的リアリティについて考える。また、履修学生それぞれに何らかの文学体験があるので、それらを聴き合い、共有し、文学を味わう意義について主体的に考えるのを目標とする。素材作品は、『怒り』（吉田修一）と『わたしを離さないで』（カズオ・イシグロ）とする。なお、活字作品だけでなく、映像作品が近年多く制作されるようになってきているので、映像を観ることでメディアリテラシー的な手法でも学ぶ。使用メディアの違いによって鑑賞者の気持ちが受ける影響について考えると同時に、社会的背景が創り出すエピソードを学びながら、作品の存在意義について考え、文章化する力を養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 一般教育科目	歴史に学ぶ	本授業では、生活文化・地域文化の歴史を対象としている。文化の形成には地域的特質とともに、時代相に影響を受けた時間的な積み重ねや変遷が条件となる。そして、さまざまな条件によって、多くの文化現象が重層的に存在する。具体的には、私たちの住んでいる東海地域（東海地方）の生活文化・地域文化の歴史を理解するために、歴史的・民俗学的視点に立って、学生によるプレゼンテーションの形態を取り入れて、東海地方独自の文化現象を検討していく。そして、東海地域の地域性を日本における生活文化の歴史の中で、位置付けができる力を養うことを目的とする。	
	国際事情	2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsについて学習する。このSDGsの採択されるまでの国際的な背景、地球的課題を学習することで、SDGs的な思考法や、とらえ方を学びながら、私たちが日常的に影響を受けやすい「エシカル消費とフェアトレード」を課題の中心におく。これは、グローバル経済の下で経済・社会・環境の調和による課題解決を求めているものである。その現実や考え方を主体的に学び、その取り組みについて知り、今後の社会の在り方を模索させることにより、地球市民として生き抜く感性・センスを育成し、磨くことを目的とする。また、この講義を通じた学修によって、地球社会に関心を持ち、1) 主体的に考察したり意見を述べたり、2) 他者の意見を聴きあう力を身に付ける。そのプロセスを通じて、3) 地球的諸課題を自分事として捉え、それらの課題を善き社会創造への基礎づくりとなるように、4) ポジティブに捉える力を身に付け、建設的な提案力を身に付ける。	
	日本国憲法	高校までに日本国憲法を学ぶ場合には、憲法上の制度や権利をバラバラに学び、暗記することが中心であったと思われるが、それでは日本国憲法の正しい理解はできないし、関心を持つこともできない。この講義では、実際の社会や政治、日常生活との関わりを意識しながら「生きた知識、実感できる理解」、「なぜそうなるのか、核心をおさえた憲法」としての日本国憲法の理解を目指す。全15回はまず、憲法の定める国民主権、平和の尊重などの理念とともに、憲法が最高法規としてどのように国民の権利擁護に貢献しているかという全体像を学ぶ。続いて、表現・言論の自由、思想の自由などの精神的人格的な人権、さらには生存権、労働基本権、財産権など社会生活上の人権について、具体的な内容を世の中での問題・出来事と関連づけながら、暗記知識としてではない活きた理解を目指す。とくに、近時は新型コロナウイルス感染症が社会に大きく影響しており、憲法にかかわる問題も多数生じている。後半では、国会、内閣、裁判所など「国家の機関の構造や役割」、国会議員・閣僚の地位や責任、さらには例えば「国民の意思を確かめるために衆議院を解散する」というのはどういう意味なのかを正しく理解して行く。昨今、国会議員に対する批判が強いが、むしろ逆に国会議員の特権をなくして国民からの直接リコールを可能とすれば、どんな逆効果があるかなど、ふだんは意識しない観点からも分析して行く。それらを踏まえて、日本国憲法が国民を主権者としていかに尊重しているか、今の国民が政治に不満を持ちつつもいかに不十分な政治に手を貸す結果になってしまっているかについて触れる。全体を通じて、日本国憲法が、一般に持たれているような「抽象的な理屈で学びにくい科目」ではなく、「考えてみると面白い」、「最も身近な知識・素養の1つ」という意識が変わることを目標とする。	
	くらしの経済	経済の基本的仕組みを理解することによって、日常生活から生じる諸問題を単に個人的利害の視点からではなく、社会・経済の成り立ちと関連付けて対応する力を養います。すなわち、日々のくらしと経済活動の関係を把握し、くらしを経済から考えていける社会人を目指します。具体的には、経済の仕組みを学ぶ意義を確認し、経済把握の基本視点（再生産、GDP、市場の機能等々）を身につけた上で、日本経済の歩みを戦前、戦後復興、高度成長、バブル経済と辿ることによって、現在の状況の意味を掴みます。さらに、銀行システムと金融危機、外国為替と為替リスク、財政と国債累積、雇用形態の多様化など、現代の主な経済問題を考察します。	
	生活と地理	「生活と地理」では、日本や世界の自然環境や社会環境がそれぞれの地域の生活や産業にどのような影響を及しているのかを系統的・構造的に考察し、それぞれの地域の衣食住や文化について理解を深める内容で講義を進める。 具体的には、日本や世界の様々な生活（特に衣食住を中心にした暮らしや文化）が地形や気候・土壌や水などの自然環境、および、言語・民族・宗教や産業・経済活動などの社会環境によってどのように影響を受けて成立し、また、変化していくのかを具体的な地理的な事象を紹介する中で、視覚的な教材も使いながら講義を展開する。さらに、作図や資料の図表化などの作業を行い、地域の特性や地図の意味なども把握できる力も養う。	
数学の世界	自然現象、社会現象、および、身の回りの事象の数学的な側面に着目し、その数学的な性質を抽出し考察します。すなわち現象をモデル化し、数学的な推論の結果を再び現象に還元する方法を学びます。このことを通して、数学的な考え方、論理的な思考力、代数計算処理方法、結果の解釈等の数学の手法を学びます。実際には、数と量、数の種類、不確実な現象の確率事象としてのとらえ方、統計処理、複雑な事象への対応としての多変数の扱い方、そのための道具としての線形代数への入門などを取り上げます。実際の処理においては、数式の変形による定理の証明、グラフ化による定理の意味解釈などが必要になります。必要に応じて、実物による実験・実測、コンピュータによるシミュレーションなどを取り入れ、主体的な学習として取り組みます。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	一般化学	私たちの周辺で目につくものは、すべて「物質」でできている。それどころか、目に見えないものや私たち自身も例外ではないと考えられている。この「物質」の形と性質を理解する学問が化学である。この講義では、学生諸君が、近い将来に、体や食品、栄養などを深く理解していくための基礎として、一般化学の基本的な考え方を、実例や例題を交えながら教授する。	
	生命のしくみ	生物が無生物と異なり生命を営んでいることについての理解を深める。そのため、生物が進化の過程で得てきた生きるための仕組み（構造、機能等）の基礎と生命ならではの営みの特性を理解する。このため本講義では、生物学の柱である細胞、遺伝子などのマイクロレベルから、進化（社会性の進化や文化進化等も含む）、系統、生態系といったマクロレベルの生命活動の特性を学ぶ。また、生物と共存した社会のあり方を学ぶため、生物多様性保全の話題にもふれる。これらの講義を通し、人間を含む生物が生きる仕組みとその社会のあり方の理解を深め、それぞれの専門教育の理解と応用に役立てる。	
	生活の物理	私たちのまわりの自然現象は全て物理法則に従って起こります。いつでも、どこへ行っても、同じ物理法則に従って現象は起こります。つまり、物理を知っていると、「なぜそうなるのか。」「何が起こっているのか。」「この後、どうなっていくのか。」を考えることが出来ます。この授業では、身のまわりで起こる様々な現象を例に、物理的視点による科学的な見方考え方をすることを目的とします。数式は極力使用せず、身の回りの現象を理解する楽しさを知ってもらいます。全15回の授業において、生活の中で現れる力学、波動、光学、熱学、電磁気学の古典物理を学び、その後、現代の科学の基礎となる量子物理や宇宙物理まで学ぶ計画です。	
	地球環境と人間	地球環境問題を語る時に、原因となる人間の活動に比べて地球そのものに対する理解が不足している場合がある。本授業では、最新の科学知識を基に地球誕生以来の歴史(生命史を含む)を学ぶところから始め、地球がどのような内部構造を持ち、どのような水や大気の循環構造を持っているか等を順に学んでいく。地球の姿を正しく理解することで、温暖化やオゾン層の破壊、生物多様性の喪失等の地球環境問題も正しく捉えられる。以上を学ぶ過程では、人間自身も地球環境から生み出された存在であることが徐々に理解されていく。人間の能力やその限界もまた地球に生まれたからこそのものである。こうした全体像の中で地球環境と人間の関係を自ら考えてもらうことを本授業の目標とする。	
	初年次セミナー	新入生が、高校までの学び方と異なる大学での4年間を有意義に過ごすために、自らが大学で学ぶ意味を改めて考え、それを実現するための手段である授業を、よりいっそう効果的な学びの場にできるよう、スタディ・スキル(大学で学ぶための基礎技術)をまず講義で学び、ついで関連作業の課題に取り組むことで身につける。最後に「卒業後の進路」をテーマとするレポートを仕上げ、授業で学んだ内容を満たしているかについてレポートを自己評価し、他科目のレポートに応用できる力を身につける。	
芸術科目	音楽	「本授業は音楽の「心地良さ」＝「美」について古代から現代まで人間がどのように考え関わってきたかを学ぶことにより、現代の我々の音楽との関わり方について考察することを目的とする。人々が心地良い音楽とどう関わってきたかを、音楽美学の視点から、西洋音楽史の流れに沿って学びつつ、現代の様々な音楽現象との関連性を見出し、音楽が人々の社会や地域、環境など様々な事柄を反映していることを理解する。また、実際に音楽を聴くことによりその心地良さを体感し、音楽の様々な味わい方を会得する。それを基に、多様性を理解し柔軟に幅広く音楽と関わる素地を養う。さらに、現代の我々がどのように音楽と関わっていくべきかを考察し、音楽について自分の体験や意見を他人に伝えることに習熟する。	
	美術	描くことは、見ることから始まり、知ることに繋がる。医学博士でもあったレオナルド・ダ・ヴィンチは、人体について深く探求し、すばらしい絵画や、デッサンを残している。西洋美術史の中で、レオナルド・ダ・ヴィンチや、ミケランジェロ等主にルネッサンス期の人間をモチーフにした作品を紹介し、人体の描き方について解説する。また、20世紀フランスの画家ジャン・デュビュツフェが提唱し、アウトサイダーアートとして施設等で広まった、アール・ブリュットを紹介する。	
	書道	現代において、公的な書類等の作成にはパソコンを使うが、私的な手紙などは、日本の書の伝統美に則した手書き文字を使いたい人の手助けとなる時間になりたい。現代の仮名作家による時候の挨拶文を使い確立された伝統的な筆使いを習得し日常生活でも活かせることを目標とする。また、大筆を使う場合は、蘭亭序、孔子廟堂碑、顔子家廟碑、争坐位稿などの中国漢字古典を臨書し、小中学校書写とは異なる字体を習得する。以上を踏まえた上で言葉集より言葉を選び創作作品を製作する。	
外国語科目	Basic English 1	多様化、グローバル化する社会のなかで、英語はさまざまな専門分野において重要なコミュニケーションツールとなっている。この授業では英語運用能力のうち、聞く・話す力を中心としたオーラルコミュニケーションの技能の向上に重点を置く。英語でのコミュニケーションに必要な語彙や表現を学び、会話を発展させるための方策を身につけ、自信を持って英語でコミュニケーションを展開できるようにすることを目指す。また医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションが取れるよう、外国の文化や社会に対する認識も深められるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目	Basic English 2	前期の「Basic English 1」に引き続き、聞く・話す力を中心としたオーラルコミュニケーションの技能の向上に重点を置くが、読むこと、書くことに関するタスクも取り入れる。英語でのコミュニケーションに必要な語彙や表現を学び、会話を発展させるための方策を身につけ、自信を持って英語でコミュニケーションを展開できるようにすることを旨とする。また医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションが取れるよう、外国の文化や社会に対する認識も深められるようにする。	
	Advanced English 1	現代社会においてグローバルなマーケットで活躍するには、英語は重要な手段のひとつであり、そのためには英語の4つの技能（話すこと・聴くこと・書くこと・読むこと）を身につけることは必須である。この授業では学生にとって効果的な学習を提供し、一人ひとりの語学力がより向上するよう学生の理解度を測りながらさまざまな状況や状態を模するなど、英語の実践的な使用に取り組む。ペアワーク、スピーチ、ディベートなど現実的で活きた英語をロールプレーで体験し、習得できるようにする。	
	Advanced English 2	前期の「Advanced English 1」に引き続き、現代社会におけるグローバルなマーケットで活躍するのに不可欠な手段のひとつである英語の4つの技能（話すこと・聴くこと・書くこと・読むこと）を身につけることを旨とする。授業では学生にとって効果的な学習を提供し、一人ひとりの語学力がより向上するよう学生の理解度を測りながらさまざまな状況や状態を模するなど、英語の実践的な使用に取り組む。ペアワーク、スピーチ、ディベートなど現実的で活きた英語をロールプレーで体験し、習得できるようにする。	
	総合英語A-1	大学での英語学習をより効果的に深められるよう、中学・高校で学んだ項目の確認、復習を適宜行ないながら、多くのドリルやタスク活動を通じて英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を研磨し、専門分野でのキャリアに活かせる基礎的な英語力を身につける。グローバル化が進む社会において、医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを取る際に必要な、異文化への理解にも資するようにする。	
	総合英語A-2	前期の「総合英語A-1」に引き続き、大学での英語学習をより効果的に深められるよう、中学・高校で学んだ項目の確認、復習を適宜行ないながら、多くのドリルやタスク活動を通じて英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を研磨し、専門分野でのキャリアに活かせる基礎的な英語力を身につける。グローバル化が進む社会において、医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを取る際に必要な異文化への理解にも資するようにする。	
	総合英語B-1	グローバル化が進みつつある日本では、日本語を母国としない人々を対象としてコミュニケーションをとる機会が増えつつある。このような状況を踏まえて、「世界共通語」と言える英語を運用できる人材を育成することはきわめて重要である。そうした需要に応える意味において、本講座が担う役割は非常に大きいと思われる。授業においては、英文法の基礎知識と大学生に必要とされるベーシック・コミュニケーション能力を身につけ、後期の「総合英語B-2」につなげることを目的とする。 以下はその主たる目標である。 1. リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4つのスキルをバランス良く向上させる。 2. 基本的な英文法項目を確認する。 3. 日本語と英語の発想の違いを理解する。 また、日常生活で役立つ実用英会話表現が学べる映像・音声資料を用いることにより、英語をより身近に感じ取れるようにする効果を狙う。	
	総合英語B-2	グローバル化が進みつつある日本では、日本語を母国としない人々を対象としてコミュニケーションをとる機会が増えつつある。このような状況を踏まえて、「世界共通語」と言える英語を運用できる人材を育成することはきわめて重要である。そうした需要に応える意味において、本講座が担う役割は非常に大きいと思われる。前期の「総合英語B-1」に引き続き、これまでの授業で培った基礎英語力を活かしながら、英文法の応用力と大学生に必要とされるコミュニケーション能力をさらに向上させることを目的とする。 以下はその主たる目標である。 1. リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4つのスキルをバランス良く向上させる。 2. 重要な英文法項目の再確認をする。 3. 日本語と英語の発想の違いをさらに理解する。 また、日常生活で役立つ実用英会話表現が学べる映像・音声資料を用いることにより、英語をより身近に感じ取れるようにする効果を狙う。	
	初級フランス語 1	本講義はフランス語の初級運用能力の養成を目指すものである。具体的には基礎的な文法項目と日常的な会話表現の習得を目標とする。文法項目に関しては、フランス語の名詞の性と数、冠詞、動詞の活用（現在形）を中心に学習する。これはAPEF（フランス語教育振興協会）が公認している仏検5級レベルに相当する文法項目をとりあげ、加えてフランス語の基礎的な単語の習得を目指す。会話表現に関しては、講義内でできるだけ多くの映像を取り入れる。これは実際にフランス語がどのように話されているのかを視覚的にとらえるとともに、文法や発音の規則について考える機会となることとなる。すなわち、ことばを主体的に学びながら、自ら考える力、自分のことを表現する力を身につけることを目指すこととなる。また、フランスやフランス語圏の文化に関する知識がこれによってさらに深まることを期待する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	初級フランス語 2	本講義は初級フランス語1に引き続き、初級運用能力の養成を目指すものである。具体的には基礎的な文法項目と日常的な会話表現の習得を目標とする。文法項目に関しては、フランス語の時制と動詞の活用（複合過去形まで）を中心に学習する。また、APEF（フランス語教育振興協会）が公認している仏検5級レベルに相当する文法項目と単語習得を目指す。会話表現に関しては、講義内でできるだけ多くの映像を取り入れる。これは実際にフランス語がどのように話されているのかを視覚的にとらえるとともに、文法や発音の規則について考える機会となることとなる。すなわち、ことばを主体的に学びながら、自ら考える力、自分のことを表現する力を身につけることを目指すこととなる。また、フランスやフランス語圏の文化に関する知識がこれによってさらに深まることを期待する。	
	中級フランス語	本講義は「初級フランス語」で学習した知識や表現を踏まえたうえで、さらに発展的な内容に取り組むものである。文法的には、規則動詞だけでなく多様な動詞の活用、さらには様々な代名詞や疑問詞を学習することで、初級よりも応用性の高い内容を正確に表現できるようになることを目指す。また、これと同時に会話で使うフランス語表現を学習し、練習することを通して、日常生活の様々な場面でフランス語を運用することができるようになることを目標とする。	
	初級中国語 1	日本人は漢字を理解していますので、世界中でいちばん中国語の学習に有利な条件を備えていると言えます。しかし、それだけに安易さが出てしまうことに注意しなければなりません。意味や使い方が異なることも多いうえ、読み方がまるで違うからです。それゆえ、この授業では、中国語の読み方、つまり発音とその表記法を確実に習得し、中国語をマスターするための基礎をつくることを目的とします。そこでは、知識の習得だけでなく、中国語の発音に体で慣れさせることに重点を置きます。また、中国語の学習と併せて、中国の文化・社会事情についても解説します。これによって、日本語を再認識するとともに、日本の文化・社会事情、とりわけ本学部・学科に関連する事柄の一端を浮き彫りにしたいと考えます。	
	初級中国語 2	初級中国語 1 で習得した内容を基礎としたうえで、簡単な日常会話ができる能力を身につけることを目的とします。具体的には、中国語で挨拶や自己紹介ができるというレベルから、自分の考えが中国語で少しでも言えるように指導します。たとえば、CDやビデオ教材等のなかで、中国人が何を言っているか耳をすまし、自分が知っている限りの中国語で自分の考えが言えるように練習します。それとともに、中国語でのコミュニケーションを支え、伸ばすための文法を理解できるようにします。また、中国語の学習と併せて、中国の文化・社会事情についても解説します。これによって、日本語を再認識するとともに、日本の文化・社会事情、とりわけ本学部・学科に関連する事柄の一端を浮き彫りにしたいと考えます。	
	中級中国語	初級中国語 2 に引き続き、中国語の基本的語法を学習し、さらに高度な聞く力、話す力を養成し、日常会話ができるようにします。また、衣食住などの中国文化にの理解につとめます。適宜映像資料を用いて中国文理解に努めます。	
情報・表現科目	情報処理演習 1	在宅勤務の増加傾向にある現代社会においては、情報機器の基本操作および情報処理に関する基本技能の習得が1つの要件である。特に、インターネットのようにネットワークを通して情報発信ができるスキルは不可欠である。演習では専門科目等を学ぶための基礎として、コンピュータの基礎操作、日本語ワードプロセッサ、表計算の操作の技能習得を目指す。授業計画としては大きく3つに区分している。1つは、ネットワーク利用、基本ソフトウエアの操作（windows）、情報コミュニケーションの基本操作（メール、web）である。2つは、ワードの基礎から活用までを学習する。3つは、EXCELによる表計算の基礎から関数活用である。	
	情報処理演習 2	情報化社会では、情報機器の基本操作および情報処理に関する基本技能の修得が一つの要件である。特に、インターネットなどの情報ネットワークを通して情報を収集、発信をする場合、必要不可欠でもある。本演習では、医療科学部で専門科目等を学ぶための基礎として、情報処理演習 1 で学んだコンピュータの基本操作の復習ののち、インターネットを活用した情報検索や情報収集、パワーポイントを用いたプレゼンテーション技法、および各種応用ソフトを活用した、情報収集のまとめ資料や、プレゼンテーション資料の作成を行い、情報処理の技術、能力を養う。これらにより情報処理に関する思考力、判断力、表現力など、総合的な応用力を身に付けられる。以上より、理学療法、作業療法を学ぶにあたって必要な資質を高め、基礎知識と応用力を身に付けることができる。	
	日本語表現法 1	相手に意見を伝えるための（掛かり受けなどに関する）知識や、その意見を適切に論じられる思考力を身につけることを目標とします。内容としては、自身の研究に関して問いを立て、参考文献をもとに論じるミニレポートを作成します。その際には学生同士のピアレビューの機会を多く取り入れ、活動的な学びとなるように配慮します。また教員からも必要に応じてフィードバックを行い、確実な修得をめざします。レポートとそのライト（教員からのフィードバックを受けたレポートの再執筆）の機会を通して、大学生活に必要な文章力を身につけることを目指します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	情報・表現科目	日本語表現法 2	本授業の目的は、自らの考えを的確に伝達するために必要な知識を習得し、それを目的と場面に応じて適切に運用する力を身につけることである。 文章表現は、言語コミュニケーションの大きな柱の一つであり、その能力は多くの場面で求められている。本授業では、様々な文章にふれながら、段落関係、文章の構成、要旨、敬語、適切な表現と表記、文章の推敲、意見文の作成等の事項への理解を深める。その上で、目的と場面に応じ、自らの考えをわかりやすく伝える方法を学ぶ。	
	体育・健康科目	健康科学	健康に関する考え方は、ヘルスプロモーションの定義における「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」という健康観に変化してきている。その現状を踏まえ、本講義では、健康づくりの3原則（運動、栄養、休養）に即し、健康課題に着目し、生活習慣の予防、発育・発達について学習する。そして、自らの生活習慣における健康を維持・増進できるライフサイクルの構築をめざす。また、運動・スポーツの理論や具体的な方法、安全に関する知識について理解する。	
		スポーツ 1	各種スポーツを楽しみながら実践し、スポーツの持つ価値・役割を理解し、知識と技術を習得する。また、チームマネジメントの重要性を理解し、課題解決の手段を思考し、より高い成果を得るために工夫・創造することを体験する。さらに、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康の維持増進に努め、生涯を通して豊かな生活を送るための生活習慣の礎を獲得する。	
スポーツ 2	各種スポーツを楽しみながら実践し、スポーツの持つ価値・役割を理解し、知識と技術を習得する。また、チームマネジメントの重要性を理解し、課題解決の手段を思考し、より高い成果を得るために工夫・創造することを体験する。さらに、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康の維持増進に努め、生涯を通して豊かな生活を送るための生活習慣の礎を獲得する。			
学部学科間共通科目	基礎生物学	近年、ライフスタイルの変化によるストレスや食生活の変化が要因となって生活習慣病を患う人が増加している中で、健康に対する関心、また健康維持のための「食」への関心が高まってきている。将来、医療・福祉の現場で人体を扱う者として、生活環境や食生活が及ぼす人体への影響を理解し、人体の構造と機能について基本的な知識を身につけることが大切である。本講義では、人体の構造と機能および病気の成り立ちや、食の影響を理解することを目的として、細胞の基本構造と機能、体を構成する栄養素の種類とその性質および機能、また生体防御機構や、食と老化の関わりなどを取り上げ概説する。		
	情報処理概論	現代の高度情報化社会の中で様々な仕事に従事する場合、コンピュータによる情報処理に関する基礎知識を身に付けていることが不可欠である。そこで、コンピュータの基本原理や機能、そして情報処理の流れを知るとともに、機器を起動させ、各種のソフトウェアを使うための基礎としてのオペレーティングシステムの役割などを習得する。さらに、オペレーティングシステムのもとで動作するアプリケーションソフトウェアの種類について理解を深め、パーソナルコンピュータやインターネットの仕組みを理解する。		
	基礎統計処理	データの分析と統計について、その意味と特徴を理解できるようになる。求められている処理を判断して、計算し、表現できるようになる。記述統計として、平均、分散、標準偏差、中位数、最頻値、変動係数の意味を理解でき、これらを計算できるようになる。相関係数の意味を理解し、相関係数を計算し、相関分析ができるようになる。推測統計として、確率の考え方について、その意味と計算方法を身につける。確率分布の正規分布とt分布の意味を理解できるようになる。標準正規分布を利用した分析ができるようになる。中心極限定理の意味を理解でき、計算できるようになる。標本平均値から母集団の平均値の推定ができるようになる。検定の意味を理解し、計算できるようになる。		
	口腔健康管理学	口腔機能が健康維持に大きくかかわっていることが明らかになってきたことから、口腔健康管理では口腔機能が全身に与える影響を理解し、口腔機能維持を目的とした口腔ケアを実践するための基礎知識を習得する。まず口腔、顎関節の構造および口腔機能を理解し、口腔機能が全身に及ぼす影響、特に認知機能やストレス反応、脂質代謝、運動機能などに及ぼす影響を学習する。また、口腔機能障害を引き起こす代表的な口腔疾患（う蝕、歯周病、顎関節症、舌疾患など）とこれらの疾患の治療法の概要を学習する。最後に口腔機能維持に必要な口腔ケアや嚥下機能訓練などの手法を学び、フィジカルトレーニング、臨床実習に繋がる基礎知識を習得する。		
ライフステージ栄養学 1	人間が誕生してから死に至るまでのさまざまなライフステージにおける人体の生理的特徴を理解するとともに、各ステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理を習得することを目的としている。具体的には、妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の推移について十分に理解し、さらに健康増進や疾病予防に寄与する栄養の機能の理解、健康への影響に関わるリスク管理の基本的な考え方や方法について理解する。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学部学 科間 共通 科目	学部間 共通 科目	緩和ケア論	一般病棟や外来、在宅において、すべての看護師が身につけるべき「基本的緩和ケア」について学習する。痛みをはじめとした身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛について包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を身につける。また、End of Life Care、家族のグリーフワークについて学び、がんとともにその人らしく生きるための支援と患者とその家族のQOL維持向上のために必要な看護援助方法を探究する。		
		災害看護論	災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、災害医療システムや災害サイクル等の基礎的知識について学ぶ。また、災害サイクル各期における生活者のニーズの変化にそった看護や支援体制ネットワークについて理解を深めるとともに、災害時に看護が果たす役割と必要な看護支援活動について学ぶ。そのうえで、学部間連携科目であることから、学科特性を生かした専門職業人としての役割と多職種連携について演習などを取り入れ、学びを深める。		
	学部学 科間 共通 科目	学科間 共通 科目	基礎ゼミナール	本科目では、大学での学びの導入として、「初年次セミナー」で学んだスタディ・スキルを活用し、グループワークを通じてコミュニケーションスキルを高める。また、テーマを設定し、必要な情報を収集・分析・統合し、論理的に思考できる基本的な能力を身につける。さらに、主体的な学びへの基礎作り、学ぶ楽しさと生涯にわたり学び続ける習慣の体得が本科目の目的である。授業は、取り上げたテーマについて、主張と根拠を明示し、客観性のある考察をしてグループ単位で発表する。最終的には、発表時の質問や意見等を参考にグループで再検討し、課題提出する。	共同（一部）
			リハビリテーション医学	多職種との連携が必要なリハビリテーション医療で、用いられる用語を理解する。日々進歩する医学、医療の世界で、理学療法、作業療法の専門的な知識・技術を蓄積していくのに必要な、主体的な関わり方について学ぶ。	
			健康増進とリハビリテーション	地域住民の“健康寿命延伸”に寄与できるリハビリテーションの専門技能に加え、チーム連携に不可欠な看護や栄養管理等の他職種の基礎的知識を理解すること、また、地域住民向けの健康増進サービスの立案と試行を体験し、効果的かつ包括的な連携におけるリハビリテーションの役割を習得することを目的とする。地域住民の健康増進に対する他職種の役割を理解するために、学部間の連携のもと基本的知識を学ぶとともに、地域で展開されている健康増進サービスを参考にした学習機会を取り入れる。	共同（一部）
			女性の健康	（概要）近年、社会的・職業的な側面において、女性の地位と役割は大きく変化し、活躍の場が拡大している。このような時代において、女性が心身の健康を維持して社会参加し、豊かな人生を実現し続けることは重要である。 本科目では、女性の健康の基本的概念を学ぶとともに、女性の心身の健康に関する諸課題について、解剖学および生理学的視点、および精神心理的側面からも学ぶ。また、看護や栄養の分野における諸課題とサポートの実際についても学び、将来の多職種連携に生かしていく。 （オムニバス方式／全8回） （17 石村由利子／2回） 女性の健康の基本的概念について学ぶ、看護的観点から見た健康課題とサポートの実際について学ぶ。 （25 西本 裕／1回） 女性の解剖学的特徴について学ぶ。 ② 小野塚 實／1回） 女性の生理学的特徴について学ぶ。 （39 池谷政直／3回） 思春期の精神心理的課題とサポートについて学ぶ、青年・成人期の精神心理的課題とサポートについて学ぶ、産前産後の精神心理的課題とサポートについて学ぶ。 （36 佐喜真未帆／1回） 栄養的観点から見た健康課題とサポートの実際について学ぶ。	オムニバス方式
			教育学	本授業は、教育学を中心とした教育関連諸学における基礎的なものの見方の習得を通じて、現代社会における教育に関わる現象についての批判的思考力を身につけることを目的とする。学校教育を中心としつつも、学校や教室を一種の社会空間として捉え、ひろく社会における人間形成・人間関係という視点から教育という現象にアプローチする。テーマとしては、大学生の生き方モデル、教師－生徒関係、職業と学校とのつながりなど、受講者の興味関心に応じた題材を設定する。関連する文献や映像資料を活用しながら、受講者の経験に基づいた討論をもとに、社会において教育学の知見をいかに活用していくかを考える。	
			教育方法論	教育の方法と技術の基本的理論の理解と実践力を育成する。様々な視点から人間の成長に有効な教育の方法と技術を学び、効果的な教育活動を計画し展開する能力を養う。教育の場における個人や集団に対する理解を観察及び検査の解釈を通して行う。SSTやSGEの理論と実践を通して良好な人間関係を構築する方法を学ぶ。また、教育活動の場におけるユニバーサルデザインの考え方やICTの効果的な利用法、JSLの人々への理解と対応方法についても講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	理学療法士(PT)、作業療法士(OT)に必須な人体の構造について学修する。主な学修内容は「細胞、組織、発生」「解剖学総論」「骨格系」「関節系」「筋系」「神経系」「体表解剖学」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる解剖学的知識を身につけ、科学的視点に立脚した深い洞察力を身につける。	
		解剖学Ⅱ	PT、OTに必須な人体の構造について学修する。主な学修内容は「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」「泌尿生殖器系」「内分泌系」「感覚器系」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる解剖学的知識を身につけ、科学的視点に立脚した深い洞察力を身につける。	
		解剖学実習	解剖学講義で習得した人体の構造について、それらの器官を目視することにより、より理解を深める。特にPT、OTに必要とされる「運動器系」については深く学修する。	
		生理学Ⅰ	人体の生命維持に関わる生理機能の仕組みについて、細胞の働きから各器官(臓器)の機能を通して学修する。主な学修内容は「細胞の生理機能」「末梢神経系と中枢神経系」「筋・腱系」「体性感覚・特殊感覚系」「血液系」「循環器系」「呼吸器系」「腎臓と排泄機能」「消化器系」の生理機能である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる生命活動やその維持機能に関して科学的視点からの深い洞察力を身につける。	
		生理学Ⅱ	人体の生命維持に関わる生理機能の仕組みについて、細胞の働きから各器官(臓器)の機能を通して学修する。主な学修内容は「内分泌系機能」「代謝と体温」「生殖と発生」「成長と老化」「運動生理」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる生命活動やその維持機能に関して科学的視点から深い洞察力を身につける。	
		生理学実習	生理学で習得した生体の生理機能について理解を深めるために、主として正常人を対象とした実験・実習を行う。実習テーマは、「①血圧・心拍数の測定1」「②血圧・心拍数の測定2」「③腎機能の実験」「④皮膚感覚と深部感覚の測定」「⑤浸透圧の観察」「⑥消化液の作用」である。	
		人間発達学	人間は、環境と絶えず相互作用をもちながら成長・発達し続け、変化している。そこで、ヒトの誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのように発達していくのか、またどのような要因が発達に影響を及ぼすのかについて学習する。人間が生まれてから青年期までを中心に、その成長発達を身体機能、心理機能、社会的機能の各側面から情報収集・分析をするとともに、成長発達を理解するうえで役立つ理論についても学習する。	
		基礎運動学	「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」の知識を基礎として、上肢、頸部、体幹、下肢の各関節運動における筋・神経機能を理解する。筋収縮によって起こる関節運動のメカニズムについて、さらに骨の形状や靭帯の走行など各関節の機能的な特徴を把握しながら、正常な筋・関節運動を学修する。また、臨床における理学療法の視点から運動に関与する力学の基礎、運動に伴う生理学的機能を修得する。	
		基礎運動学演習	基礎運動学で修得した内容を、様々な機器を用いて科学的に検証する。具体的には、「基本動作」を構成する関節運動、また各動作の開始姿勢となる立位や座位などを題材として取り上げ、筋電図、重心動揺計などを用いて様々な視点から客観的な動作分析を行う。またこの演習で用いる測定機材に関して、その使用目的や使用方法について一通りの理解を得ることも目的となる。これにより今後臨床において生じる様々な疑問を自ら解決するために必要不可欠となる臨床研究能力の基礎を修得する。	
		臨床心理学	臨床心理は心理学の中でもその人のこころの悩みや葛藤等、こころのメカニズムや病を理解し、問題解決を図ろうとする実践的な学問である。患者の病気や障害の発症、経過、治療の効果、予後がその病気の器質的・機能的な問題だけでなく、心理・社会的要因が関与していることが多い。実際の事例を通して、必要な対人活動の知識と臨床心理学的アプローチの方法を学習する。	
進	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学概論	(概要) 次世代の地域住民の健康増進を目指すには、まず医療の歴史と日進月歩する現代医療の全体を理解することが重要である。そのうえで、一般的医学的行為とそれに関連する専門知識の習得が求められる。本科目では、一連の一般的医学的行為の内容とその意義、診断の目的と手順、所見とカルテ記載、疾病の診断、治療方針の決定と効果判定、疾病の予防、救命救急、薬理作用について学習する。 (オムニバス方式/全8回) (25 西本裕/6回) 1, 2, 3, 4, 5, 6回 一般的医学的行為の歴史と概要その意義について学ぶ、診察の目的、医療面接を含む診察の手順について学ぶ、所見の取り方、カルテの記載について学ぶ、疾病の診断、治療方針の決定、治療効果の判定について学ぶ、疾病予防の意義および予防医学の基本について学ぶ、救命救急とバイタルサインの基本について学ぶ (64 仙田典保/2回) 7, 8回 薬理作用と作用機序、生体活性物質と薬物について学ぶ、各疾患治療薬の薬効と副作用、薬と法律について学ぶ	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理・感染学	病理学は病気の成り立ちを探求する学問であり、疾病と症候の意義や分類、病因等について理解する。正常な細胞や組織、器官の形態や正常な生体機能が障害によってどのように変化するのかを学ぶ。また炎症や感染による疾患や感染経路と病態微生物が身体にどのような異常を引き起こすことになるのか、診断・治療への大きな役割を担う科目であることを学ぶ。	
		整形外科学	リハビリテーションを学ぶ上で必要な運動器の障害について理解する。整形外科的な外傷、疾患について、病因、経過、診断法、治療法について学ぶ。姿勢の保持、運動に関わる身体的な変化をとらえ、治療による回復過程について学ぶ。	
		神経内科学	神経内科は脳や脳幹、脊髄、末梢神経、各種感覚器等、広範な脳神経系に起きるすべての診断と治療に関わっていることから、地域包括ケアを活用する患者が増えている。よって神経系の解剖や生理学を復習したうえで、理学療法士や作業療法士が深くかかわる主要疾患について、その概念や疫学、症状、治療、検査等について系統的に学習する。	
		老年医学	超高齢社会である現在、健康な高齢者や障害のある高齢者がQOLの維持・向上を図るために、幅広い視点から支援していくための知識が望まれる。老年期を理解するために、加齢に伴う生理的变化を学習し、老年期に特徴的な疾患や障害と生活への影響について、疫学、予後、病態等について学習する。さらに、我が国の高齢者を支援するための地域の取り組みや国の制度についても学習する。	
		精神医学	現代社会の中でストレスを抱えて入院する患者が増えている。高齢化や身体合併症の罹患等により活動意欲の減退、体力の低下、肥満等の問題を起こす。身体運動量の低下は欲動の低下や引きこもり、うつ状態、痴呆、意識障害等を引き起こし、治療の阻害因子となる。よって精神疾患や精神症状のある対象に対して理学及び作業療法士の介入を必要することから、病態や治療等について学習する。	
		内科学	疾病論を学習する上において、まず専門基礎科目で学習した解剖学、生理学、生化学および薬理学等を復習することが大切である。そのうえで臨床現場においてリハビリテーション療法を必要とする内科疾患の病理的背景や概念および回復、内科的治療、検査、検査データの解釈、予防等の基本的知識を学習する。	
		小児科学	小児は出生から思春期に至るまでの発達段階において、さまざまな疾患や発達障害を生ずることがある。その障害が児のその後の人生に影響を及ぼす可能性があることから、リハビリテーションは重要な社会復帰支援となる。小児疾患とその治療などについて理解しなければ安全な医療を提供することができないことから、小児の成長発達過程やリハビリテーションの対象となる疾患の病態や症状、治療、予後について学習する。	
		臨床検査診断概論	(概要) 理学療法士および作業療法士が多職種連携における医療専門チームの一員として活躍するためには、カルテの共通理解は必須であり、臨床検査および画像診断の基本的理解は不可欠である。臨床検査の診療に占める重要性は年々増大しており、画像診断はリハビリテーションの評価治療には欠かせない情報である。本科目では、このような重要性を踏まえて、臨床検査および画像診断の基本を習得することを目的とする。 (オムニバス方式／全8回) (77 畑忠善／5回) 検体検査の意義、種類、臨床的役割について学ぶ、一般的臨床検査(尿便・血液・体液を中心に)について学ぶ、生化学検査の基本を学ぶ、免疫学、微生物学、病理検査の基本を学ぶ、呼吸機能、心機能および神経学的検査の基本を学ぶ (25 西本裕／3回) 頭頸部の画像診断の基本を学ぶ、内臓の画像診断の基本を学ぶ、脊椎・脊髄・骨関節・軟部の画像診断の基本を学ぶ	オムニバス方式
		臨床栄養学 1	臨床栄養学を学ぶ目的は、様々な疾病の発症や治療、その予防のために栄養や食事がどのように関与しているかを理解し、その知識を疾病の治療に生かし、個々に適した栄養状態の改善を考慮した実践的な栄養・食事療法の技術を修得することである。リハビリテーションにおいて、その効果を最大限発揮するには適切な栄養管理が行われていることが不可欠であり、心身機能の回復や維持に栄養・食事療法は大きな意味を持つ。本講義では栄養療法が特に重要な疾病を中心に、リハビリテーションを実践する上で必要な臨床栄養学の基礎知識を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 専門基礎分野科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	災害医療	<p>(概要) 近年、地震や豪雨等の自然災害、感染症パンデミック等により救急医療の必要性が増している。リハビリテーションに従事する療法士も医療現場にかかわる重要な専門職として、災害時において医療的役割が求められる。災害を被った患者を支援する一員として、災害医療や救急医療、救急患者の特徴や具体を理解するとともに、自身の役割を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (54 加納秀記/6回) 災害医療、救急医療体制の基本骨格を学ぶ、自然災害時の主要な疾患の病態を学ぶ、パンデミックになり得る主要な感染症の病態を学ぶ、救急疾患の診断と治療法の基本について学ぶ、救急処置の基本を学ぶ(心肺蘇生)、救急措置の基本を学ぶ(火傷・熱傷、止血、患部固定) (70 中島久元/2回) 災害時のリハビリテーションの役割を学ぶ、災害時のメンタルケアについて学ぶ</p>	オムニバス方式
	リハビリテーション概論	<p>(概要) 理学療法士や作業療法士を目指す学生は、リハビリテーションに従事する療法士が単に疾病や怪我等に起因する身体機能障害の回復を目指す職種であると捉えるのではなく、対象者の尊厳を尊重した「全人的復権」を図る医療専門職であると理解する必要がある。本科目では、現在に至るまでのリハビリテーションに関連するトピックスを交えながら、リハビリテーションの理念、生活障害と自立した生活の再獲得に向けた支援の在り方、社会保障の基礎も踏まえ、リハビリテーションについて多面的に理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (21 竹田徳則/4回) 全人的復権、リハビリテーションの理念、ノーマライゼーションについて学ぶ 国際生活機能分類 (ICF) について学ぶ 作業療法とリハビリテーションについて学ぶ リハビリテーションと社会保障の基礎について学ぶ (25 西本裕/3回) 国内外のリハビリテーションとその歴史について学ぶ リハビリテーションの流れとチームアプローチについて学ぶ 医学的リハビリテーションについて学ぶ (3 齋木しゅう子/1回) 理学療法とリハビリテーションについて学ぶ</p>	オムニバス方式
	生命倫理学	<p>生命倫理学は生命科学や医学の進歩がもたらした新しい倫理問題を探求する学問である。この生命倫理の発達によって医療現場で大きく変化した実践は「インフォームドコンセント」と「個人情報の保護」である。選択の自由の権利、情報を得る権利、自己決定の権利、機密保持を得る権利等の基本的な考え方を学習するとともに、他の人との会話から医療職者としての姿勢や考え方、人間性、感性と価値観を学習する。</p>	
	公衆衛生学	<p>個人だけでなく、地域住民・組織の構成員など集団を対象とした予防医学、健康の保持・増進を図るための理念やその対策について学習する。人間集団を対象とした環境整備、疾病の予防、健康管理、感染症の予防、食品衛生などの制度や対策などについての理解を深め、生活の質向上への支援が実践できる基盤となる知識を修得する。</p>	
	チーム医療連携論	<p>(概要) チーム医療の重要性を伝えるIPE (Interprofessional education ; 専門職連携教育、関連職種連携教育) の実践として、医療・福祉領域に携わる職種とその役割を理解し、対象者の状況を的確に把握し対応した医療・介護サービスの提供のため、関係する各専門職が目的と情報を共有し、業務を分担しつつも、互いに連携・補完し、連携を図りながらの協働について学ぶ。専門職の職務の役割や責任、チームアプローチのモデル、病期別のチームの機能と課題、チーム力を高めるコミュニケーションのありかたについて学部合同のグループ討議による事例への対応等を講義や演習を通して学ぶ。本授業は、3年前期開講科目であり、総合臨床実習Ⅰを経験する学生が臨床現場での実践につながる授業となる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (31 盛田麻己子/2回) 日本の保健医療福祉制度における専門職の種類と役割を理解し、チーム医療の理念と実際について学ぶ。また、チーム医療における看護職の役割と責任について考え、チーム医療の効果や課題について概説する。 (12 渡邊潤子/2回) チーム医療における理学療法士の役割を説明し、チームアプローチのモデル、身体・活動面の視点から病期別のチームの機能と課題について概説する。 (38 山下英美/2回) チーム医療における作業療法士の役割を説明し、ICFの視点から病期別のチーム機能と課題について概説する。 (15 新井信之/2回) 対象者への基本的対応をグループワークを通し検討する。また、グループワークにおける望ましいコミュニケーションや取り組み方を修得する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	日本における保健・医療・福祉行政の理念と法制度、社会資源について学修する。具体的には社会福祉の概要や介護保険制度、権利擁護さらに、住民の基本的人権としての権利「健康」をサポートするために、地域保健法や医療保険制度、医療法、難病法、母子保健法、障害者に関する法律など、公衆衛生やヘルスプロモーションなどによる地域づくりとそれを行なうしくみについて理解を深める。特に近年進められている社会保障制度改革から、地域包括ケア、地域医療構想など保健・医療・福祉行政分野の喫緊の課題についても詳しく学ぶ。	
理学療法専門分野科目	基礎理学療法学	理学療法を行う上で、疾患から障害を詳細に把握できるように、この機能障害病態論では多岐にわたる身体機能を解剖学、生理学から理解を深め、身体各器官の形態と機能を中心に人体の基本となる知識を習得する。呼吸器、循環器、消化器などの構造を働きと関連づけて理解を深める。中枢神経系の解剖と生理をふまえ、運動、感覚、知能などの生理学について理解を深め、さらに理学療法学で必要とする基礎的事項について学ぶ。	
	理学療法学概論	(概要) 理学療法学の概要を学ぶことと、理学療法士を目指す上で身につけるべく知識や技術の概要及び当大学で専門的に学ぶ内容の大枠を把握する。理学療法学の概略を知るとともに疾患から障害を詳細に把握できるように、多岐にわたる身体機能の中で、運動器を中心に解剖学、生理学から理解を深め、身体の形態と機能を中心に人体の基本となる知識を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (12 渡邊潤子/9回) 理学療法学の概略とともに疾患から障害を詳細に把握できるように、運動器を中心に解剖学、生理学から理解を深め、人体の基本となる知識を講義する。 (59 近藤 登/5回) 理学療法士を目指す上で身につける知識や技術の概要と理学療法学の概略を講義する。 (82 古田博之/1回) 理学療法学の概略を学んだあと、実際の理学療法士の働きを紹介し、臨床における要点を講義する。	オムニバス方式
	理学療法学研究法	理学療法分野の研究を遂行する能力を習得する講義である。理学療法専攻で学んだ内容について、研究の意義や目的を始めとして、文献収集、対象や方法の選択、結果、考察といった研究の進め方を理解すること、医療統計の基礎を学修すること、研究倫理について学ぶ。この講義は4年次に行われる理学療法卒業研究を実施する上で基礎となる講義である。	
	理学療法学研究法演習	理学療法学研究法で学んだ知識をもとに、研究の意義や目的につながる興味や疑問を見出し、文献や知見の収集、妥当な対象や方法の選択、結果のまとめ、考察といった研究の進め方を演習する。また、疫学統計、医療統計の知識をもとに統計資料や研究論文を適切に読み解く能力を獲得する。また研究論文の書き方、発表方法を学び、論文の構成を実際に検討し研究の進め方を演習する。	共同
	理学療法卒業研究	理学療法学研究法と演習で習得した内容のもとに、臨床実習や理学療法学の専門領域で生じた疑問を解決する手法について実際の研究を通し学ぶ。指導教員のもと小人数のゼミに分かれ、文献に基づく論文の構成、妥当な対象や方法の選択、結果のまとめ、考察と研究を進め、研究論文の作成、発表を実施する。	共同
	理学療法管理学	理学療法学概論をはじめ、理学療法専門分野科目で学んだ医療、福祉における理学療法全般の知識をもとに、理学療法における管理学を学ぶ講義である。理学療法の実施にあたり、安全で質の高い理学療法が求められる。そのためには医療、福祉に関する制度（医療保険・介護保険制度を含む。）の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに、理学療法倫理、理学療法業務、理学療法教育についての理解を深める必要がある。理学療法実施にかかわる管理の考え方について学修する。	
理学療法評価学	(概要) 治療を開始する前に適切な評価の実施が重要である。理学療法評価学は治療に際し、医療情報等の入手、検査・測定の実施、問題点の抽出、プログラムの立案という一連の過程を学ぶ講義である。疾患から障害を充分に把握できるように、多岐にわたる身体機能を解剖学、生理学から理解を深め、さらに評価の内容へと展開していくとともに、評価の理念を学ぶ。また、日常生活活動や社会環境をふまえた評価の基本に関わる障害モデルについても講義する。 (オムニバス方式/全8回) (10 玉木 徹/5回) 医療情報等の入手、検査・測定の実施、問題点の抽出、プログラムの立案という一連の過程を説明し、日常生活活動や社会環境をふまえた評価の基本に関わる障害モデルについて講義する。 (12 渡邊潤子/3回) 身体機能を解剖学、生理学から理解を深め、評価の内容へと展開していく過程を説明し、評価の理念を講義する。	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法専門分野科目	理学療法評価学	<p>(概要) 筋・骨格系の異常によって引き起こされる身体機能障害の評価方法である徒手筋力検査と関節可動域検査形態測定、姿勢・アライメント測定等について実習を行い実践できるようにする。また、理学療法評価の構成要素である医療面接の技法や情報保護などについても学習する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑥ 駒形純也/10回) 身体機能障害の評価方法である関節可動域検査、形態測定、姿勢・アライメント測定等について実習を行い、指導する。理学療法評価における医療面接の技法や情報保護などについて説明・指導する。</p> <p>(59 近藤登/5回) 身体機能障害の評価方法である徒手筋力検査について実習を行い、指導する。</p>	オムニバス方式
		<p>(概要) 神経系疾患における理学療法評価を行う際に必要となる代表的な検査・測定の意義、具体的な方法論を学び、検査結果やその他の情報より病態や障害像を理解する。臨床で多く経験する脳血管障害、パーキンソン氏病等の代表的な疾患で実施する検査項目を中心に授業を進め、病巣・病変による症状の違いを解剖学・生理学から理解できるよう学習する。</p>	
		<p>(概要) 内科疾患の病態理解とそれから生じる内部障害の異常によって引き起こされる身体機能障害の評価方法を学び、実際に演習する。また、医学的情報（情報の取り扱い、情報保護を含む）をふまえて理学療法評価の選定方法、理学療法評価の構成要素である医療面接などについても学習する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 玉木 徹/10回) 糖尿病、メタボリックシンドローム、癌等に必要知識、各種検査、測定の技術、及び一連の評価に対する思考プロセスを確認することを目的とした演習を指導する。</p> <p>(71 西林公子/5回) 呼吸器疾患、循環器疾患に必要な各種検査、測定の技術、及び一連の評価を実際を想定した演習として指導する。</p>	オムニバス方式
		<p>人体における一連の動作で生じる、各関節運動、関節に対する筋の作用、関節間の連動、関節運動と動作の関係などについて理解を深め、理論的に動作分析を行う知識について演習を通じて学ぶ。動作分析の手順及び手法を学習し、観察した動作について自ら理論的に説明できることを目的として、後に開講される理学療法学における運動療法や日常生活動作の動作指導につながるよう演習をすすめていく。動作分析の手順及び手法を学習し、自ら動作分析が実施できるよう学習する。</p>	
		<p>(概要) 臨床実習における理学療法評価とは、疾患・障害を理解し、患者の個性に配慮して必要な検査測定項目を、正確に行い、検査結果を解釈し、ゴール設定、治療プログラム立案に至るまでの一連の過程を指す。本演習では、各講義・演習等で学んだ検査測定方法を用い理学療法評価の意義と流れを理解し、正確な検査測定および適切な統合と解釈が可能となることを目標とする。模擬患者の情報から、必要な検査や問診事項をグループで検討し、まとめ・プレゼンテーションを行う。得られた患者情報から統合と解釈をグループで検討しレポートにまとめる。また、基礎的情報について不可欠な画像評価について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 内藤絃一/10回) 画像評価と運動器障害、内部障害に必要な各種検査、測定の技術、及び一連の評価に対する思考プロセスを確認することを目的とした演習を指導する。</p> <p>(5 米澤久幸/5回) 脳卒中、神経疾患に必要な各種検査、測定の技術、及び一連の評価について実際に想定した演習として指導する。</p>	オムニバス方式
理学療法評価学	<p>(概要) 総合臨床実習をより効果的にするために、基礎知識をはじめ、各種検査、測定の技術、及び一連の評価に対する思考プロセスを確認することを目的とした学内実習とする。OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) の要素を含む。総合臨床実習Ⅱの前に行い、学生が十分に習得できていない項目について強化を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 玉木 徹/10回) 各種検査、測定の技術、及び一連の評価に対する思考プロセスを確認することを目的とした演習として、具体的な評価を指導する。</p> <p>(11 内藤絃一/5回) OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) を実施するうえで、実際に想定した演習を行い、評価の要素を再確認し臨床への応用を指導する。</p>	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
理学療法専門分野科目	理学療法治療学	基礎運動療法学	理学療法の基礎および疾病の種類に関係なく共通する理学療法治療の基本的な知識・技術を修得する。解剖学、生理学および運動学の学んだ知識のもと、運動の様々なしくみについて学ぶとともに、基本的な理学療法手技である関節可動域制限に対する運動療法、筋力低下に対する運動療法、筋緊張異常、持久力低下、バランス・平衡機能低下や起居移動に関する運動療法の方法について学ぶ。	
		運動器障害理学療法学	運動器障害には骨関節や筋肉疾患だけではなく、神経障害を引き起こす疾患もある。運動器の障害や病態、日常の診療でよく遭遇する整形外科疾患に対する理学療法について理解できるように教授する。講義では運動器障害を総論的に解説した後に、身体部位別に疾患を取り上げ、各論的に疾患と理学療法について理解できるように教授する。運動器障害に対する理学療法評価や保存療法、術前・術後の理学療法における徒手理学療法や運動療法を中心とした治療手技についても基本的な考え方を教授する。	
		運動器障害理学療法演習	運動器障害に対する理学療法について、必要な評価を正確に実施し、適切な治療プログラムが選択、実践できるよう学ぶ。代表的な運動器系の障害の経過や病態に対して適切な徒手理学療法や運動療法を選択し、総合的に理学療法が行えるよう実践学修する。運動器障害例として肩関節周囲炎などの慢性疾患や腱板損傷などの急性疾患の病態、下肢の骨折や変形性関節症、腰痛などの脊椎疾患、リウマチ疾患、さらに膝及び足関節の障害についての理学療法を学修する。	
		神経筋障害理学療法学	(概要) 中枢神経疾患は理学療法において実践する代表的な対象である。この講義では中枢神経疾患から生じる様々な障害の理解を深め、理学療法の評価と治療の考え方、要点を講義する。障害像は多岐にわたり、また一見類似する障害も原因により予後や治療は異なる。中枢神経の解剖・生理学をふまえ、脳血管障害、脳性麻痺、失調症、進行性疾患に対して基本となる理学療法の考え方を学習する。また理学療法の治療に関わる痙性や固縮といった筋緊張異常や運動・動作に現れる障害の特徴について解説する。 (オムニバス方式/全15回) (69 中路純子/10回) 中枢神経疾患から生じる様々な障害の理解を深め、理学療法の評価と治療の考え方、要点を講義する。特に小児の中枢神経障害について発達をふまえ、講義する。 (⑤ 藤田浩之/5回) 中枢神経の解剖・生理学をふまえ、脳血管障害、痛み、失調症、進行性疾患に対して基本となる理学療法の考え方と痙性や固縮といった筋緊張異常や運動・動作に現れる障害の特徴について講義する。	オムニバス方式
		神経筋障害理学療法演習	(概要) 神経筋障害理学療法をふまえた演習で、中枢神経障害に対する理学療法を紹介し、評価法と治療法を実際に学修する。脳血管障害による脳卒中片麻痺、パーキンソン等に対する理学療法、急性期、回復期、慢性期における治療法、日常生活活動の指導、セルフエクササイズなどの基本となる治療を学ぶ。多系統萎縮症(脊髄小脳変性症)、パーキンソン病等の各種神経疾患、脊髄損傷による四肢麻痺、対麻痺に対する評価と治療、ADL指導などを実際の演習として学ぶ。リスク管理、感染予防等、基本となる治療を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (① 石田和人/10回) 様々な中枢神経疾患から生じる障害の理解を深め、理学療法の評価と治療の考え方、要点を症例を通して演習する。 (⑤ 藤田浩之/5回) 脳血管障害による片麻痺患者に対して、急性期、回復期、維持期の基本となる理学療法の考え方と実際の治療について演習する。	オムニバス方式
	内部障害理学療法学	(概要) 呼吸・循環・代謝の機能を確立し、理学療法士の関与が多い呼吸器疾患、循環器系疾患、代謝疾患の病態を理解するため、解剖学・生理学について学ぶ。運動負荷時の身体反応と内部障害患者のリスクを把握し、有効で安全性の高い運動処方や理学療法について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (③ 齋木しゅう子/10回) 内部障害の代表的な対象である肺、心臓、肝臓、腎臓などの各臓器の働きは密接に連携しており、症状は広範囲に現れ合併しやすい。この講義では内部障害の理解を深め、理学療法の評価と治療の考え方、要点を講義する。 (71 西林公子/5回) 内部障害に対するリスクのとりえ、安静と運動との調整、コンディショニング、適切な運動負荷量の選択など基本となる考え方を講義する。	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法専門分野科目	内部障害理学療法学演習	<p>(概要) 内部障害系の運動療法を進める上で、診断学、治療・管理について学び、心臓リハビリテーションや肺理学療法の実際と共に運動耐容能や各疾患の病態の程度と可能な運動負荷やADL訓練について学び、安全性の高い運動処方とリスク管理のあり方を習得する。特に、内部障害に対する理学療法の実際を紹介し、治療法を学習する。COPDに対する呼吸理学療法、虚血性心疾患に対する運動療法、メタボリック症候群に対する運動及び生活指導などの知識と技術を習得する。急性期と維持期における治療の考え、リスクをふまえた基本的な治療、具体的な運動処方、日常生活指導等を学習する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 内藤統一/10回) 循環器疾患、代謝性疾患から生じる障害の理解を深め、理学療法の評価と治療の考え方、要点を症例を通して演習する。</p> <p>(③ 齋木しゅう子/5回) 呼吸器疾患に対する呼吸理学療法の基本となる理学療法の考え方と実際の手技を学修する。</p>	オムニバス方式
	スポーツ障害理学療法学	<p>スポーツ選手は他選手との接触や転倒などによる外傷、反復運動や誤ったトレーニング負荷による過用、バイオメカニクスの観点から見た誤った身体の使い方により生じる誤用などにより受傷する。本講義は基礎運動学、基礎運動学演習を始め2年生の理学療法評価学演習の知識をもとに、スポーツ障害に携わる理学療法士にとって基礎となる知識を各関節の機能解剖、バイオメカニクス、競技特性と好発しやすいスポーツ障害、環境、栄養などの観点から学ぶ。</p>	
	発達障害理学療法学演習	<p>(概要) 小児の理学療法対象疾患である脳性麻痺や二分脊椎などの疾患は、重症化した状態で理学療法対象となることもあり、遺伝疾患としての筋ジストロフィー症やダウン症候群など、発達段階における理学療法対象疾患は多岐にわたる。これら発達障害児の評価と理学療法について学習する。 新生児からの運動発達における基本原則について理解を深め、小児理学療法部門で頻繁に遭遇する脳性まひ、筋ジストロフィー症、重症心身障害児及び神経筋疾患、運動発達遅滞・ダウン症・二分脊椎、小児の整形外科疾患の疾患概要と理学療法について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(69 中路純子/10回) 脳性麻痺による神経障害の特徴を運動、感覚、高次脳機能の側面からとらえ、評価と治療の考え方、要点を指導する。</p> <p>(⑤ 藤田浩之/5回) 筋ジストロフィー症、神経筋疾患、運動発達遅滞・ダウン症・二分脊椎に対して基本となる理学療法の考えについて指導する。</p>	オムニバス方式
	老年期障害理学療法学	<p>代表的な老年症候群（認知症、フレイル、サルコペニアなど）の病態について理解し老年期に起こりがちな機能障害や生活不活発病に焦点を当てて、転倒、転倒恐怖、認知機能、抑うつ、筋力、歩行、健脚度、バランス、柔軟性、反応時間などの高齢者のアセスメントについて学ぶ。また、要介護になる主要な原因を学修する。</p>	
	義肢装具学	<p>上肢装具、下肢装具、体幹装具は保存的な治療や手術治療の補助手段としても用いられるのみならず、リハビリテーションの対象疾患ではその効果を高める手段の一つとして重要な位置を占めている。また、糖尿病性壊疽等で四肢の切断を余儀なくされることもあり、切断者に必要な義肢についての知識を深め、日常生活活動やQOLの向上のため理学療法を展開できる基礎知識と技術を学ぶ。さらに、独立した歩行獲得に至るまでに車椅子や歩行補助具などの知識は必須であり、装具や義肢とともに目的、適応などについて学ぶ。医師、看護師、理学療法士・作業療法士、義肢装具士、各職種の役割を理解しチームアプローチができるように学習する。</p>	
	義肢装具学演習	<p>(概要) 義肢装具学で学習した内容を理解した上で、装具の実際について学ぶ。上肢装具、下肢装具、体幹装具は保存的な治療や手術治療の補助手段としても用いられるのみならず、リハビリテーションの対象疾患ではその効果を高める手段の一つとして重要な位置を占めている。また、高齢社会では歩行補助具や車椅子などの知識は必須である。これらの装具の目的、適応などについて学ぶ。また上肢・下肢切断の臨床や、義足処方及び義足の評価と異常歩行を含めたチェックポイントについて講義し、モデル義足を用いた装着訓練についても実践指導する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(91 矢澤浩成/10回) 下肢の装具を中心に評価と異常歩行を含めたチェックポイント等を解説し、演習する。</p> <p>(④ 岡田 誠/5回) 上肢、体幹の装具と小児で使用する補装具について実践指導する。</p>	オムニバス方式
物理療法学	<p>物理療法の概念を学ぶ。温熱刺激や電気刺激、機械的刺激に対する生体の反応を理解し、物理療法との関連を学ぶ。各療法について定義、目的、効果と適応、手技、リスク管理などを中心に教授する。物理療法は、その適応を誤ると、症状の改善に効果がないばかりでなく、症状を悪化させることにもなる。各物理療法をしっかりと理解し、適切な効果判定に基づく治療を習得する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
理学療法専門分野科目	理学療法治療学	物理療法学演習	物理療法学で学んだ知識をもとに、各療法における目的、効果と適応、禁忌について再確認し、機器の使用手順に習熟することを目的とする。少人数のグループで簡単な実験を通じて各物理療法によって起こる様々な生理的反応を測定（血圧、表面皮膚温度など）し理解する。得られた測定結果の妥当性を検討し、実験結果を発表し討論を行う。	
		日常生活活動学	（概要）理学療法における日常生活活動（ADL）の知識と技術、リハビリテーション医学が対象とする障害の概念についてICF(国際生活機能分類)を学修する。ADLをICFによる障害構造に照らし合わせ、ADLの客観的評価方法、運動学的分析に基づいた基本動作とセルフケア、各疾患に対する動作介助、日常生活を支援する移動補助具、自助具などについて具体的に学修する。 （オムニバス方式／全15回） ⑦ 松林義人／10回）ICFによる障害構造と日常生活活動（ADL）との関係や概念、ADLの評価方法、運動学的分析に基づいた基本的なADL指導、各疾患に対する動作介助について教授する。 ⑨2 渡邊良太／5回）日常生活動作（ADL）の自立を援助し、自立性を高めるために用いられる代表的な移動補助具（杖、歩行器、車椅子）、移乗関連機器、自助具について教授する。	オムニバス方式
		理学療法学セミナー	（概要）理学療法専門基礎分野科目、理学療法専門分野科目で学んだ理学療法全般の知識と技術を整理し、基礎・臨床医学系領域を統合した知識・技術、推論過程を定着させる目的の授業であり、オムニバス形式の講義、グループワークを通じて学修する。 （オムニバス方式／全15回） ⑤ 米澤久幸／7回）理学療法の知識の整理を行い、臨床への応用を目的とした演習を指導する。 ⑪ 内藤統一／8回）内部障害、神経系障害、運動器障害、地域の理学療法の知識を再確認し、臨床への活用を指導する。	オムニバス方式
		理学療法治療学特論Ⅰ （健康増進・予防）	本講義では、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。特に健康寿命延伸に対し運動処方やエネルギー状況をもとにフレイル、サルコペニアというエイジングに伴う身体機能の変化を呼吸・循環・対処という内部機能面からとらえ、健康寿命延伸に対する食と運動のあり方を理解する。また疾病予防、再発予防の面から運動処方のあり方を学ぶ。	
		理学療法治療学特論Ⅱ （中枢神経障害）	本講義では、急性期、回復期のリハビリテーションを実践するための基礎となる脳の機能局在の役割、上行路および下行路を理解する。また、中枢性障害の中でもとくに脳血管障害に重点をおき学ぶ。さらに、上記の異常により引き起こされる高次脳機能障害や様々な身体障害の成因、病態、回復過程、機能予後などについて教授する。	
		理学療法治療学特論Ⅲ （内部障害）	本特論は内部障害理学療法学、内部系障害理学療法学演習で学んだ知識と技術をもとに、内部障害者への安全な運動療法、生活指導について検討する。さらに、内部障害への理学療法、例えばリスクをふまえた基本的な治療、運動指導、日常生活指導等は様々な疾患を有する高齢者にも応用でき、疾病・障害を低減し健康増進へもつなげる知識・技術である。心臓リハビリテーション、呼吸理学療法、メタボリック症候群に対する運動及び生活指導等を疾病予防や健康管理と結びつけることができるよう講義を行い、さらに新しいトピックスを教授する。	
		理学療法治療学特論Ⅳ （脳機能）	脳機能のトピックスに触れながら、新しい視点で理学療法について考える。特に、最近のニューロサイエンスの知見をもとに、現代人の生活習慣や環境が脳に与えている影響について触れる。たとえば、運動、ストレス、食生活、睡眠などを例に取り、様々な身体への感覚入力や環境変化などが、それぞれ脳に対して多大な影響をもたらすことを学習し、理学療法やリハビリテーションの作用機序を、より広い視野に立って考察するための素養を育てる。	
地域理学療法学	（概要）高齢者、障害者を取り巻く現状や地域リハビリテーションと地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解するとともに、医療施設から地域への展開や関連が深い法制度である介護保険について具体的に学ぶ。また、在宅支援で必要となる生活環境の知識を学び、訪問リハビリテーションサービスや施設における入所・通所リハビリテーションサービス、要支援・要介護状態になる前からの介護予防事業に関わる理学療法士に必要な知識・評価・実施方法を学修する。 （オムニバス方式／全15回） ⑦ 松林義人／10回）高齢者、障害者を取り巻く現状への理解、介護保険制度、通所リハビリテーションなどの介護保険サービス、要支援・要介護状態になる前からの介護予防事業について教授する。 ⑨2 渡邊良太／5回）在宅支援での生活環境の知識を学び、日常生活動作の自立を援助する知識、家庭訪問による訪問リハビリテーションサービスについて教授する。	オムニバス方式		
地域理学				

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
理学療法専門分野科目	療法学	<p>(概要) 地域包括ケアシステムならびに介護保険サービスによる理学療法士の役割について理解を深める。地域包括ケアシステムにおける社会的背景と具体的な支援策、介護予防事業の展開、通所リハビリテーションに焦点を当て、運動機能や精神機能の向上を目的とした理学療法の手法について演習を通して検討し実践する。また、障害疑似体験を通して障害者の日常生活動作について理解を深め、地域における障害者への援助方法やコミュニケーション方法、リスク管理などを演習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑦ 松林義人/10回) 地域包括ケアシステムならびに介護保険サービスでの理学療法士の理解を深め、超高齢社会における課題、介護保険、介護予防事業の展開について演習を通して具体的に学ぶ。</p> <p>(92 渡邊良太/5回) 障害者・高齢者への援助方法やコミュニケーションの方法を、疑似体験を通じて具体的に学ぶ。</p>	オムニバス方式	
	臨床実習	見学実習	1年次のEarly Clinical Exposure (早期臨床体験学習) としての意義を有し、人との交流を通して相手の立場に立って考え、コミュニケーション能力を培う機会とする。施設での臨床実習を通して、理学療法の実施内容を見学すると共に、実習生としての態度や素養を身につける。また、見学を通して施設の概要、施設における理学療法の位置づけを学ぶ。	共同
		理学療法評価学実習	臨床実習指導者の下で、実践的な情報収集活動、面接や行動観察、徒手筋力検査、関節可動域検査等の実際を体験し、病態や障害像について分析・解釈の仕方を学ぶ。	共同
		総合臨床実習Ⅰ	2年次の理学療法評価学実習で学んだ評価に引き続き、対象者の障害像、病態により必要とされる検査・治療の方法にふれ、さまざまな情報を収集し、統合・解釈し、問題点より治療目標を設定、治療プログラムの立案に関し、臨床実習指導者のもとで理学療法の実践を学ぶ。	共同
		総合臨床実習Ⅱ	3年次の総合臨床実習Ⅰをさらに発展させるよう、自らが実施した理学療法評価に基づいて計画した理学療法治療プログラムを実習指導者の助言・指導を受けながら治療の実施を経験し、医療従事者としての資質を高めるとともに、専門職として知識と技術を統合するための視点を獲得する実習とする。	共同
		地域理学療法臨床実習	総合臨床実習Ⅱをさらに発展させるよう、自らが実施した理学療法評価に基づいて計画した理学療法治療プログラムを実習指導者の助言・指導を受けながら治療の実施を経験し、医療従事者としての資質を高めるとともに、専門職として知識と技術を統合するための視点を獲得する機会とする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(医療科学部作業療法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通科目	建学のこころ	(1) 本学創設者の生家に隣接する越原学舎で学ぶことにより、学園訓「親切」の意義と「建学の精神」を理解し、本学の教育理念・目的について認識を深める。 (2) 共同生活を通じて自己を啓発するとともに、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、4年間の学習の目標を立て、その設計を確かなものとする。	
	総合女性学	女の上に男をつくらず、女の下に男をつくらず。真の平等とは何か。金銭や自己欲求や束の間の名誉のためではなく、人間として社会人としてあるべき姿を求めて女性学を学ぶ。 ▼名女大創設者越原春子の志である『女性が学問にはげむことが社会的自立の道であり、文化の向上に繋がる。女性自らの努力による男女平等の実現。そのためには、女性が高い教養と職能をつけ、経済的に自立する必要がある。』をもって講義する。 ▼世界経済フォーラム(WEF)が男女の間にどれくらい格差があるかの「ジェンダーギャップ指数」の報告書を毎年出すのは、男女平等が経済成長につながるかと考えているからである。候補者を男女同数にするよう政党に求める候補者男女均等法・女性活躍推進法が制定され、121位の日本が遅ればせながら変わろうとしている。女性だけでなく男性も「おかしい？」と声をあげられる社会に変えていかないといけない。違いが増えれば異論が増え、それが新しい価値を生んでいく。 ▼SDGs2030では、サステナブルな開発目標のひとつに「5ジェンダー平等を実現しよう」が挙げられている。 ▼今でも「男だから？女なの？」などの言葉を耳にする。ジェンダー平等を求めた道のりを歴史から学び、「女(男)であることに縛られることなく、自分の可能性を信じ、チャレンジしよう」と一歩前に踏み出すことを応援する社会」にしていきたい。 ▼次の3点を基本姿勢に総合女性学を講義する。1 言いたいことは我慢しない。2 動かなければ何も変わらない。3 慣習やしがらみにとらわれない。	
	キャリア入門	本講義は以下の3つを目的とする。①社会に貢献できるよき職能人としての一歩を踏み出すために、仕事以外の私生活を含めたキャリア形成について広く深く学び、必要な知識と技能を習得する。②ワークとライフ両方の自身のキャリア目標を立ててその実現のために在学中に何をなすべきか、具体的な行動目標計画をたてる。③様々な職業人の実際に活躍する姿に触れて視野を広げるとともに、どんな職業においても必要となる基礎的なコミュニケーション力を向上させる。多彩な分野で働く女性や仕事と私生活のワークライフバランスに関するドキュメンタリー番組の視聴、現代社会の法律や制度に関する資料とワークシート、グループディスカッションなど様々な手法により、医療従事者としてのみならず、一人の女性として、豊かな人生を送るための礎を築くことを目指す。	
一般 教育科目	哲学の方法	予測不能の時代のなかで学生が自ら考え、正解がないかもしれない問題に自分なりの答えを見つけ、自立して行動するための助けになることを期待して、この授業は、2500年もの歴史を持つ哲学が用いていた方法を参考にして、「自ら考える」こと、それ自体を目的とする。授業では、毎回4000字ほどのテキストを読む。その際に学生は、予習で調べてきた言葉の意味を発表し、内容の要旨を発表し、内容の事実部分についての関連知識や連想した自分の体験などを意見交換し、内容の意見部分について感じた疑問・反論・共感などを意見交換して、自分の思考を深める。	
	心のしくみ	知覚、学習、記憶、認知、性格、情動、発達、臨床、社会など、心理学を理解する上での基礎的な知識を学ぶ。日常生活場面で生じるさまざまな心のメカニズムを理解することを目的とし、これまでの先行研究を提示したり、実際に心理尺度に取り組んだりしながら、私たちの生活を取り巻く現象を解き明かしていく。授業を通して、日常生活における人間のさまざまな行動をより豊かな視点で論理的に説明する力を育み、それらの理論を理解する過程で自己理解も深めていくことを目指す。	
	文学の表現と鑑賞	文学を読むことを楽しむにはどんな方法があるか。魅力的な表現を味わうには能力が必要か。それらの側面から文学の面白さ・深さを、活字だけでなく映像を利用して、感じたり、考えたり、味わいながら文学的リアリティについて考える。また、履修学生それぞれに何らかの文学体験があるので、それらを聴き合い、共有し、文学を味わう意義について主体的に考えるのを目標とする。素材作品は、『怒り』(吉田修一)と『わたしを離さないで』(カズオ・イシグロ)とする。なお、活字作品だけでなく、映像作品が近年多く制作されるようになってきているので、映像を観ることでメディアリテラシー的な手法でも学ぶ。使用メディアの違いによって鑑賞者の気持ちや受ける影響について考えると同時に、社会的背景が創り出すエピソードを学びながら、作品の存在意義について考え、文章化する力を養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 一般教育科目	歴史に学ぶ	本授業では、生活文化・地域文化の歴史を対象としている。文化の形成には地域的特質とともに、時代相に影響を受けた時間的な積み重ねや変遷が条件となる。そして、さまざまな条件によって、多くの文化現象が重層的に存在する。具体的には、私たちの住んでいる東海地域（東海地方）の生活文化・地域文化の歴史を理解するために、歴史的・民俗学的視点に立つて、学生によるプレゼンテーションの形態を取り入れて、東海地方独自の文化現象を検討していく。そして、東海地域の地域性を日本における生活文化の歴史の中で、位置付けができる力を養うことを目的とする。	
	国際事情	2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsについて学習する。このSDGsの採択されるまでの国際的な背景、地球的課題を学習することで、SDGs的な思考方や、とらえ方を学びながら、私たちが日常的に影響を受けやすい「エシカル消費とフェアトレード」を課題の中心におく。これは、グローバル経済の下で経済・社会・環境の調和による課題解決を求めているものである。その現実や考え方を主体的に学び、その取り組みについて知り、今後の社会の在り方を模索させることにより、地球市民として生き抜く感性・センスを育成し、磨くことを目的とする。また、この講義を通じた学修によって、地球社会に関心をもち、1) 主体的に考察したり意見を述べたり、2) 他者の意見を聴きあう力を身に付ける。そのプロセスを通じて、3) 地球的諸課題を自分事として捉え、それらの課題を善き社会創造への基礎づくりとなるように、4) ポジティブに捉える力を身に付け、建設的な提案力を身に付ける。	
	日本国憲法	高校までに日本国憲法を学ぶ場合には、憲法上の制度や権利をバラバラに学び、暗記することが中心であったと思われるが、それでは日本国憲法の正しい理解はできないし、関心を持つこともできない。この講義では、実際の社会や政治、日常生活との関わりを意識しながら「生きた知識、実感できる理解」、「なぜそうなるのか、核心をおさえた憲法」としての日本国憲法の理解を目指す。全15回はまず、憲法の定める国民主権、平和の尊重などの理念とともに、憲法が最高法規としてどのように国民の権利擁護に貢献しているかという全体像を学ぶ。続いて、表現・言論の自由、思想の自由などの精神的な人権、さらには生存権、労働基本権、財産権など社会生活上の人権について、具体的な内容を世の中での問題・出来事と関連づけながら、暗記知識としてではない活きた理解を目指す。とくに、近時は新型コロナウイルス感染症が社会に大きく影響しており、憲法にかかわる問題も多数生じている。後半では、国会、内閣、裁判所など「国家の機関の構造や役割」、国会議員・官僚の地位や責任、さらには例えば「国民の意思を確かめるために衆議院を解散する」というのはどういう意味なのかを正しく理解して行く。昨今、国会議員に対する批判が強いが、むしろ逆に国会議員の特権をなくして国民からの直接リコールを可能とすれば、どんな逆効果があるかなど、ふだんは意識しない観点からも分析して行く。それらを踏まえて、日本国憲法が国民を主権者としていかに尊重しているか、今の国民が政治に不満を持ちつつもいかに不十分な政治に手を貸す結果になってしまっているかについて触れる。全体を通じて、日本国憲法が、一般に持たれているような「抽象的な理屈で学びにくい科目」ではなく、「考えてみると面白い」、「最も身近な知識・素養の1つ」という意識に変わること目標とする。	
	くらしの経済	経済の基本的仕組みを理解することによって、日常生活から生じる諸問題を単に個人的利害の視点からではなく、社会・経済の成り立ちと関連付けて対応する力を養います。すなわち、日々のくらしと経済活動の関係を把握し、くらしを経済から考えていける社会人を目指します。具体的には、経済の仕組みを学ぶ意義を確認し、経済把握の基本視点（再生産、GDP、市場の機能等々）を身につけた上で、日本経済の歩みを戦前、戦後復興、高度成長、バブル経済と辿ることによって、現在の状況の意味を掴みます。さらに、銀行システムと金融危機、外国為替と為替リスク、財政と国債累積、雇用形態の多様化など、現代の主な経済問題を考察します。	
	生活と地理	「生活と地理」では、日本や世界の自然環境や社会環境がそれぞれの地域の生活や産業にどのような影響を及しているのかを系統的・構造的に考察し、それぞれの地域の衣食住や文化について理解を深める内容で講義を進める。 具体的には、日本や世界の様々な生活（特に衣食住を中心にした暮らしや文化）が地形や気候・土壌や水などの自然環境、および、言語・民族・宗教や産業・経済活動などの社会環境によってどのように影響を受けて成立し、また、変化していくのかを具体的な地理的事象を紹介する中で、視覚的な教材も使いながら講義を展開する。さらに、作図や資料の図表化などの作業を行い、地域の特性や地図の意味なども把握できる力も養う。	
	数学の世界	自然現象、社会現象、および、身の回りの事象の数学的な側面に着目し、その数学的な性質を抽出し考察します。すなわち現象をモデル化し、数学的な推論の結果を再び現象に還元する方法を学びます。このことを通して、数学的な考え方、論理的な思考力、代数計算処理方法、結果の解釈等の数学の手法を学びます。実際には、数と量、数の種類、不確実な現象の確率事象としてのとらえ方、統計処理、複雑な事象への対応としての多変数の扱い方、そのための道具としての線形代数への入門などを取り上げます。実際の処理においては、数式の変形による定理の証明、グラフ化による定理の意味解釈などが必要になります。必要に応じて、実物による実験・実測、コンピュータによるシミュレーションなどを取り入れ、主体的な学習として取り組みます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	一般教育科目	一般化学	私たちの周辺で目につくものは、すべて「物質」でできている。それどころか、目に見えないものや私たち自身も例外ではないと考えられている。この「物質」の形と性質を理解する学問が化学である。この講義では、学生諸君が、近い将来に、体や食品、栄養などを深く理解していくための基礎として、一般化学の基本的な考え方を、実例や例題を交えながら教授する。	
		生命のしくみ	生物が無生物と異なり生命を営んでいることについての理解を深める。そのため、生物が進化の過程で得てきた生きるための仕組み（構造、機能等）の基礎と生命ならではの営みの特性を理解する。このため本講義では、生物学の柱である細胞、遺伝子などのミクロレベルから、進化（社会性の進化や文化進化等も含む）、系統、生態系といったマクロレベルの生命活動の特性を学ぶ。また、生物と共存した社会のあり方を学ぶため、生物多様性保全の話題にもふれる。これらの講義を通し、人間を含む生物が生きる仕組みとその社会のあり方の理解を深め、それぞれの専門教育の理解と応用に役立てる。	
		生活の物理	私たちのまわりの自然現象は全て物理法則に従って起こります。いつでも、どこへ行っても、同じ物理法則に従って現象は起こります。つまり、物理を知っていると、「なぜそうなるのか。」「何が起こっているのか。」「この後、どうなっていくのか。」を考えることが出来ます。この授業では、身のまわりで起こる様々な現象を例に、物理的視点による科学的な見方考え方をすることを目的とします。数式は極力使用せず、身の回りの現象を理解する楽しさを知ってもらいます。全15回の授業において、生活の中で現れる力学、波動、光学、熱学、電磁気学の古典物理を学び、その後、現代の科学の基礎となる量子物理や宇宙物理まで学ぶ計画です。	
		地球環境と人間	地球環境問題を語る時に、原因となる人間の活動に比べて地球そのものに対する理解が不足している場合がある。本授業では、最新の科学知識を基に地球誕生以来の歴史(生命史を含む)を学ぶところから始め、地球がどのような内部構造を持ち、どのような水や大気の循環構造を持っているか等を順に学んでいく。地球の姿を正しく理解することで、温暖化やオゾン層の破壊、生物多様性の喪失等の地球環境問題も正しく捉えられる。以上を学ぶ過程では、人間自身も地球環境から生み出された存在であることが徐々に理解されていく。人間の能力やその限界もまた地球に生まれたからこそのものである。こうした全体像の中で地球環境と人間の関係を自ら考えてもらうことを本授業の目標とする。	
		初年次セミナー	新入生が、高校までの学び方と異なる大学での4年間を有意義に過ごすために、自らが大学で学ぶ意味を改めて考え、それを実現するための手段である授業を、よりいっそう効果的な学びの場にできるよう、スタディ・スキル（大学で学ぶための基礎技術）をまず講義で学び、ついで関連作業の課題に取り組むことで身につける。最後に「卒業後の進路」をテーマとするレポートを仕上げ、授業で学んだ内容を満たしているかについてレポートを自己評価し、他科目のレポートに応用できる力を身につける。	
	芸術科目	音楽	「本授業は音楽の「心地良さ」＝「美」について古代から現代まで人間がどのように考え関わってきたかを学ぶことにより、現代の我々の音楽との関わり方について考察することを目的とする。人々が心地良い音楽とどう関わってきたかを、音楽美学の視点から、西洋音楽史の流れに沿って学びつつ、現代の様々な音楽現象との関連性を見出し、音楽が人々の社会や地域、環境など様々な事柄を反映していることを理解する。また、実際に音楽を聴くことによりその心地良さを体感し、音楽の様々な味わい方を会得する。それを基に、多様性を理解し柔軟に幅広く音楽と関わる素地を養う。さらに、現代の我々がどのように音楽と関わっていくべきかを考察し、音楽について自分の体験や意見を他人に伝えることに習熟する。	
		美術	描くことは、見ることから始まり、知ることに繋がる。医学博士でもあったレオナルド・ダ・ヴィンチは、人体について深く探求し、すばらしい絵画や、デッサンを残している。西洋美術史の中で、レオナルド・ダ・ヴィンチや、ミケランジェロ等主にルネッサンス期の人間をモチーフにした作品を紹介し、人体の描き方について解説する。また、20世紀フランスの画家ジャン・デュビュツフェが提唱し、アウトサイダーアートとして施設等で広まった、アール・ブリュットを紹介する。	
		書道	現代において、公的な書類等の作成にはパソコンを使うが、私的な手紙などは、日本の書の伝統美に則した手書き文字を使いたい人の手助けとなる時間にしたい。現代の仮名作家による時候の挨拶文を使い確立された伝統的な筆使いを習得し日常生活でも活かせることを目標とする。また、大筆を使う場合は、蘭亭序、孔子廟堂碑、顔子家廟碑、争坐位稿などの中国漢字古典を臨書し、小中学校書写とは異なる字体を習得する。以上を踏まえた上で言葉集より言葉を選び創作作品を製作する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目	Basic English 1	多様化、グローバル化する社会のなかで、英語はさまざまな専門分野において重要なコミュニケーションツールとなっている。この授業では英語運用能力のうち、聞く・話す力を中心としたオーラルコミュニケーションの技能の向上に重点を置く。英語でのコミュニケーションに必要な語彙や表現を学び、会話を発展させるための方策を身につけ、自信を持って英語でコミュニケーションを展開できるようになることを目指す。また医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションが取れるよう、外国の文化や社会に対する認識も深められるようにする。	
	Basic English 2	前期の「Basic English 1」に引き続き、聞く・話す力を中心としたオーラルコミュニケーションの技能の向上に重点を置くが、読むこと、書くことに関するタスクも取り入れる。英語でのコミュニケーションに必要な語彙や表現を学び、会話を発展させるための方策を身につけ、自信を持って英語でコミュニケーションを展開できるようになることを目指す。また医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションが取れるよう、外国の文化や社会に対する認識も深められるようにする。	
	Advanced English 1	現代社会においてグローバルなマーケットで活躍するには、英語は重要な手段のひとつであり、そのためには英語の4つの技能（話すこと・聴くこと・書くこと・読むこと）を身につけることは必須である。この授業では学生にとって効果的な学習を提供し、一人ひとりの語学力がより向上するよう学生の理解度を測りながらさまざまな状況や状態を模するなど、英語の実践的な使用に取り組む。ペアワーク、スピーチ、ディベートなど現実的で活きた英語をロールプレーで体験し、習得できるようにする。	
	Advanced English 2	前期の「Advanced English 1」に引き続き、現代社会におけるグローバルなマーケットで活躍するのに不可欠な手段のひとつである英語の4つの技能（話すこと・聴くこと・書くこと・読むこと）を身につけることを目指す。授業では学生にとって効果的な学習を提供し、一人ひとりの語学力がより向上するよう学生の理解度を測りながらさまざまな状況や状態を模するなど、英語の実践的な使用に取り組む。ペアワーク、スピーチ、ディベートなど現実的で活きた英語をロールプレーで体験し、習得できるようにする。	
	総合英語A-1	大学での英語学習をより効果的に深められるよう、中学・高校で学んだ項目の確認、復習を適宜行ないながら、多くのドリルやタスク活動を通じて英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を研磨し、専門分野でのキャリアに活かせる基礎的な英語力を身につける。グローバル化が進む社会において、医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを取る際に必要な、異文化への理解にも資するようにする。	
	総合英語A-2	前期の「総合英語A-1」に引き続き、大学での英語学習をより効果的に深められるよう、中学・高校で学んだ項目の確認、復習を適宜行ないながら、多くのドリルやタスク活動を通じて英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を研磨し、専門分野でのキャリアに活かせる基礎的な英語力を身につける。グローバル化が進む社会において、医療の現場で多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを取る際に必要な異文化への理解にも資するようにする。	
	総合英語B-1	グローバル化が進みつつある日本では、日本語を母国としない人々を対象としてコミュニケーションをとる機会が増えつつある。このような状況を踏まえて、「世界共通語」と言える英語を運用できる人材を育成することはきわめて重要である。そうした需要に応える意味において、本講座が担う役割は非常に大きいと思われる。授業においては、英文法の基礎知識と大学生に必要とされるベーシック・コミュニケーション能力を身につけ、後期の「総合英語B-2」につなげることを目的とする。 以下はその主たる目標である。 1. リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4つのスキルをバランス良く向上させる。 2. 基本的な英文法項目を確認する。 3. 日本語と英語の発想の違いを理解する。 また、日常生活で役立つ実用英会話表現が学べる映像・音声資料を用いることにより、英語をより身近に感じ取れるようにする効果を狙う。	
	総合英語B-2	グローバル化が進みつつある日本では、日本語を母国としない人々を対象としてコミュニケーションをとる機会が増えつつある。このような状況を踏まえて、「世界共通語」と言える英語を運用できる人材を育成することはきわめて重要である。そうした需要に応える意味において、本講座が担う役割は非常に大きいと思われる。前期の「総合英語B-1」に引き続き、これまでの授業で培った基礎英語力を活かしながら、英文法の応用力と大学生に必要とされるコミュニケーション能力をさらに向上させることを目的とする。 以下はその主たる目標である。 1. リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4つのスキルをバランス良く向上させる。 2. 重要な英文法項目の再確認をする。 3. 日本語と英語の発想の違いをさらに理解する。 また、日常生活で役立つ実用英会話表現が学べる映像・音声資料を用いることにより、英語をより身近に感じ取れるようにする効果を狙う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	初級フランス語 1	本講義はフランス語の初級運用能力の養成を目指すものである。具体的には基礎的な文法項目と日常的な会話表現の習得を目標とする。文法項目に関しては、フランス語の名詞の性と数、冠詞、動詞の活用（現在形）を中心に学習する。これはAPEF（フランス語教育振興協会）が公認している仏検5級レベルに相当する文法項目をとりあげ、加えてフランス語の基礎的な単語の習得を目指す。会話表現に関しては、講義内でできるだけ多くの映像を取り入れる。これは実際にフランス語がどのように話されているのかを視覚的にとらえるとともに、文法や発音の規則について考える機会となることとなる。すなわち、ことばを主体的に学びながら、自ら考える力、自分のことを表現する力を身につけることを目指すこととなる。また、フランスやフランス語圏の文化に関する知識がこれによってさらに深まることを期待する。	
	初級フランス語 2	本講義は初級フランス語1に引き続き、初級運用能力の養成を目指すものである。具体的には基礎的な文法項目と日常的な会話表現の習得を目標とする。文法項目に関しては、フランス語の時制と動詞の活用（複合過去形まで）を中心に学習する。また、APEF（フランス語教育振興協会）が公認している仏検5級レベルに相当する文法項目と単語習得を目指す。会話表現に関しては、講義内でできるだけ多くの映像を取り入れる。これは実際にフランス語がどのように話されているのかを視覚的にとらえるとともに、文法や発音の規則について考える機会となることとなる。すなわち、ことばを主体的に学びながら、自ら考える力、自分のことを表現する力を身につけることを目指すこととなる。また、フランスやフランス語圏の文化に関する知識がこれによってさらに深まることを期待する。	
	中級フランス語	本講義は「初級フランス語」で学習した知識や表現を踏まえたうえで、さらに発展的な内容に取り組むものである。文法的には、規則動詞だけでなく多様な動詞の活用、さらには様々な代名詞や疑問詞を学習することで、初級よりも応用性の高い内容を正確に表現できるようになることを目指す。また、これと同時に会話で使うフランス語表現を学習し、練習することを通して、日常生活の様々な場面でフランス語を運用することができるようになることを目標とする。	
	初級中国語 1	日本人は漢字を理解していますので、世界中でいちばん中国語の学習に有利な条件を備えていると言えます。しかし、それだけに安易さが出てしまうことに注意しなければなりません。意味や使い方が異なることも多いうえ、読み方がまるで違うからです。それゆえ、この授業では、中国語の読み方、つまり発音とその表記法を確実に習得し、中国語をマスターするための基礎をつくることを目的とします。ここでは、知識の習得だけでなく、中国語の発音に体で慣れさせることに重点を置きます。また、中国語の学習と併せて、中国の文化・社会事情についても解説します。これによって、日本語を再認識するとともに、日本の文化・社会事情、とりわけ本学部・学科に関連する事柄の一端を浮き彫りにしたいと考えます。	
	初級中国語 2	初級中国語1で習得した内容を基礎としたうえで、簡単な日常会話ができる能力を身につけることを目的とします。具体的には、中国語で挨拶や自己紹介ができるというレベルから、自分の考えが中国語で少しでも言えるように指導します。たとえば、CDやビデオ教材等のなかで、中国人が何を言っているか耳をすまし、自分が知っている限りの中国語で自分の考えが言えるように練習します。それとともに、中国語でのコミュニケーションを支え、伸ばすための文法を理解できるようにします。また、中国語の学習と併せて、中国の文化・社会事情についても解説します。これによって、日本語を再認識するとともに、日本の文化・社会事情、とりわけ本学部・学科に関連する事柄の一端を浮き彫りにしたいと考えます。	
	中級中国語	初級中国語2に引き続き、中国語の基本的語法を学習し、さらに高度な聞く力、話す力を養成し、日常会話ができるようにします。また、衣食住などの中国文化にの理解につとめます。適宜映像資料を用いて中国文化理解に努めます。	
情報・表現科目	情報処理演習 1	在宅勤務の増加傾向にある現代社会においては、情報機器の基本操作および情報処理に関する基本技能の習得が1つの要件である。特に、インターネットのようにネットワークを通して情報発信ができるスキルは不可欠である。演習では専門科目等を学ぶための基礎として、コンピュータの基礎操作、日本語ワードプロセッサ、表計算の操作の技能習得を目指す。授業計画としては大きく3つに区分している。1つは、ネットワーク利用、基本ソフトウエアの操作（windows）、情報コミュニケーションの基本操作（メール、web）である。2つは、ワードの基礎から活用までを学習する。3つは、EXCELによる表計算の基礎から関数活用である。	
	情報処理演習 2	情報化社会では、情報機器の基本操作および情報処理に関する基本技能の修得が一つの要件である。特に、インターネットなどの情報ネットワークを通して情報を収集、発信をする場合、必要不可欠でもある。本演習では、医療科学部で専門科目等を学ぶための基礎として、情報処理演習1で学んだコンピュータの基本操作の復習ののち、インターネットを活用した情報検索や情報収集、パワーポイントを用いたプレゼンテーション技法、および各種応用ソフトを活用した、情報収集のまとめ資料や、プレゼンテーション資料の作成を行い、情報処理の技術、能力を養う。これらにより情報処理に関する思考力、判断力、表現力など、総合的な応用力を身に付けられる。以上より、理学療法、作業療法を学ぶにあたって必要な資質を高め、基礎知識と応用力を身に付けることができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	情報・表現科目	日本語表現法 1	相手に意見を伝えるための（掛かり受けなどに関する）知識や、その意見を適切に論じられる思考力を身につけることを目標とします。内容としては、自身の研究に関して問いを立て、参考文献をもとに論じるミニレポートを作成します。その際には学生同士のピアレビューの機会を多く取り入れ、活動的な学びとなるように配慮します。また教員からも必要に応じてフィードバックを行い、確実な修得をめざします。レポートとそのリライト（教員からのフィードバックを受けたレポートの再執筆）の機会を通して、大学生活に必要な文章力を身につけることを目指します。
		日本語表現法 2	本授業の目的は、自らの考えを的確に伝達するために必要な知識を習得し、それを目的と場面に応じて適切に運用する力を身につけることである。文章表現は、言語コミュニケーションの大きな柱の一つであり、その能力は多くの場面で求められている。本授業では、様々な文章にふれながら、段落関係、文章の構成、要旨、敬語、適切な表現と表記、文章の推敲、意見文の作成等の事項への理解を深める。その上で、目的と場面に応じ、自らの考えをわかりやすく伝える方法を学ぶ。
	体育・健康科目	健康科学	健康に関する考え方は、ヘルスプロモーションの定義における「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」という健康観に変化してきている。その現状を踏まえ、本講義では、健康づくりの3原則（運動、栄養、休養）に即し、健康課題に着目し、生活習慣の予防、発育・発達について学習する。そして、自らの生活習慣における健康を維持・増進できるライフサイクルの構築をめざす。また、運動・スポーツの理論や具体的方法、安全に関する知識について理解する。
		スポーツ 1	各種スポーツを楽しみながら実践し、スポーツの持つ価値・役割を理解し、知識と技術を習得する。また、チームマネジメントの重要性を理解し、課題解決の手段を思考し、より高い成果を得るために工夫・創造することを体験する。さらに、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康の維持増進に努め、生涯を通して豊かな生活を送るための生活習慣の礎を獲得する。
		スポーツ 2	各種スポーツを楽しみながら実践し、スポーツの持つ価値・役割を理解し、知識と技術を習得する。また、チームマネジメントの重要性を理解し、課題解決の手段を思考し、より高い成果を得るために工夫・創造することを体験する。さらに、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康の維持増進に努め、生涯を通して豊かな生活を送るための生活習慣の礎を獲得する。
	学部学科間共通科目	学部間共通科目	基礎生物学
情報処理概論			現代の高度情報化社会の中で様々な仕事に従事する場合、コンピュータによる情報処理に関する基礎知識を身に付けていることが不可欠である。そこで、コンピュータの基本原理や機能、そして情報処理の流れを知るとともに、機器を起動させ、各種のソフトウェアを使うための基礎としてのオペレーティングシステムの役割などを習得する。さらに、オペレーティングシステムのもとで動作するアプリケーションソフトウェアの種類について理解を深め、パーソナルコンピュータやインターネットの仕組みを理解する。
基礎統計処理			データの分析と統計について、その意味と特徴を理解できるようになる。求められている処理を判断して、計算し、表現できるようになる。記述統計として、平均、分散、標準偏差、中位数、最頻値、変動係数の意味を理解でき、これらを計算できるようになる。相関係数の意味を理解し、相関係数を計算し、相関分析ができるようになる。推測統計として、確率の考え方について、その意味と計算方法を身につける。確率分布の正規分布とt分布の意味を理解できるようになる。標準正規分布を利用した分析ができるようになる。中心極限定理の意味を理解でき、計算できるようになる。標本平均値から母集団の平均値の推定ができるようになる。検定の意味を理解し、計算できるようになる。
口腔健康管理学			口腔機能が健康維持に大きくかかわっていることが明らかになってきたことから、口腔健康管理では口腔機能が全身に与える影響を理解し、口腔機能維持を目的とした口腔ケアを実践するための基礎的知識を習得する。まず口腔、顎関節の構造および口腔機能を理解し、口腔機能が全身に及ぼす影響、特に認知機能やストレス反応、脂質代謝、運動機能などに及ぼす影響を学習する。また、口腔機能障害を引き起こす代表的な口腔疾患（う蝕、歯周病、顎関節症、舌疾患など）とこれらの疾患の治療法の概要を学習する。最後に口腔機能維持に必要な口腔ケアや嚥下機能訓練などの手法を学び、フィジカルトレーニング、臨床実習に繋がる基礎知識を習得する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部間共通科目	ライフステージ栄養学1	人間が誕生してから死に至までのさまざまなライフステージにおける人体の生理的特徴を理解するとともに、各ステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理を習得することを目的としている。具体的には、妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の推移について十分に理解し、さらに健康増進や疾病予防に寄与する栄養の機能の理解、健康への影響に関わるリスク管理の基本的な考え方や方法について理解する。	
	緩和ケア論	一般病棟や外来、在宅において、すべての看護師が身につけるべき「基本的緩和ケア」について学習する。痛みをはじめとした身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛について包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を身につける。また、End of Life Care、家族のグリーフワークについて学び、がんとともにその人らしく生きるための支援と患者とその家族のQOL維持向上のために必要な看護援助方法を探究する。	
	災害看護論	災害が地域や人々の健康と生活に多大な影響を及ぼすことを理解し、災害医療システムや災害サイクル等の基礎的知識について学ぶ。また、災害サイクル各期における生活者のニーズの変化にそった看護や支援体制ネットワークについて理解を深めるとともに、災害時に看護が果たす役割と必要な看護支援活動について学ぶ。そのうえで、学科間連携科目であることから、学科特性を生かした専門職業人としての役割と多職種連携について演習などを取り入れ、学びを深める。	
学部学科間共通科目	基礎ゼミナール	本科目では、大学での学びの導入として、「初年次セミナー」で学んだスタディ・スキルを活用し、グループワークを通じてコミュニケーションスキルを高める。また、テーマを設定し、必要な情報を収集・分析・統合し、論理的に思考できる基本的な能力を身につける。さらに、主体的な学びへの基礎作り、学ぶ楽しさと生涯にわたり学び続ける習慣の体得が本科目の目的である。授業は、取り上げたテーマについて、主張と根拠を明示し、客観性のある考察をしてグループ単位で発表する。最終的には、発表時の質問や意見等を参考にグループで再検討し、課題提出する。	共同（一部）
	リハビリテーション医学	多職種との連携が必要なリハビリテーション医療で、用いられる用語を理解する。日々進歩する医学、医療の世界で、理学療法、作業療法の専門的な知識・技術を蓄積していくのに必要な、主体的な関わり方について学ぶ。	
	健康増進とリハビリテーション	地域住民の“健康寿命延伸”に寄与できるリハビリテーションの専門技能に加え、チーム連携に不可欠な看護や栄養管理等の他職種の基礎的知識を理解すること、また、地域住民向けの健康増進サービスの立案と試行を体験し、効果的かつ包括的な連携におけるリハビリテーションの役割を習得することを目的とする。地域住民の健康増進に対する他職種の役割を理解するために、学部間の連携のもと基本的知識を学ぶとともに、地域で展開されている健康増進サービスを参考にした学習機会を取り入れる。	共同（一部）
	女性の健康	（概要）近年、社会的・職業的な側面において、女性の地位と役割は大きく変化し、活躍の場が拡大している。このような時代において、女性が心身の健康を維持して社会参加し、豊かな人生を実現し続けることは重要である。 本科目では、女性の健康の基本的概念を学ぶとともに、女性の心身の健康に関する諸課題について、解剖学および生理学的視点、および精神心理的側面からも学ぶ。また、看護や栄養の分野における諸課題とサポートの実際についても学び、将来の多職種連携に生かしていく。 （オムニバス方式／全8回） （15 石村由利子／2回） 女性の健康の基本的概念について学ぶ、看護的観点から見た健康課題とサポートの実際について学ぶ。 ② 西本 裕／1回 女性の解剖学的特徴について学ぶ。 （16 小野塚 実／1回） 女性の生理学的特徴について学ぶ。 ⑤ 池谷政直／3回 思春期の精神心理的課題とサポートについて学ぶ、青年・成人期の精神心理的課題とサポートについて学ぶ、産前産後の精神心理的課題とサポートについて学ぶ。 （36 佐喜真未帆／1回） 栄養的観点から見た健康課題とサポートの実際について学ぶ。	オムニバス方式
	教育学	本授業は、教育学を中心とした教育関連諸学における基礎的なものの見方の習得を通じて、現代社会における教育に関わる現象についての批判的思考力を身につけることを目的とする。学校教育を中心としつつも、学校や教室を一種の社会空間として捉え、ひろく社会における人間形成・人間関係という視点から教育という現象にアプローチする。テーマとしては、大学生の生き方モデル、教師－生徒関係、職業と学校とのつながりなど、受講者の興味関心に応じた題材を設定する。関連する文献や映像資料を活用しながら、受講者の経験に基づいた討論をもとに、社会において教育学の知見をいかに活用していくかを考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 学科間 共通 科目	教育方法論	教育の方法と技術の基本的理論の理解と実践力を育成する。様々な視点から人間の成長に有効な教育の方法と技術を学び、効果的な教育活動を計画し展開する能力を養う。教育の場における個人や集団に対する理解を観察及び検査の解釈を通して行う。SSTやSGEの理論と実践を通して良好な人間関係を構築する方法を学ぶ。また、教育活動の場におけるユニバーサルデザインの考え方やICTの効果的な利用法、JSLの人々への理解と対応方法についても講義する。	
専門基礎分野科目	解剖学Ⅰ	理学療法士(PT)、作業療法士(OT)に必須な人体の構造について学修する。主な学修内容は「細胞、組織、発生」「解剖学総論」「骨格系」「関節系」「筋系」「神経系」「体表解剖学」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる解剖学的知識を身につけ、科学的視点に立脚した深い洞察力を身につける。	
	解剖学Ⅱ	PT、OTに必須な人体の構造について学修する。主な学修内容は「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」「泌尿生殖器系」「内分泌系」「感覚器系」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる解剖学的知識を身につけ、科学的視点に立脚した深い洞察力を身につける。	
	解剖学実習	解剖学講義で習得した人体の構造について、それらの器官を目視することにより、より理解を深める。特にPT、OTに必要とされる「運動器系」については深く学修する。	
	生理学Ⅰ	人体の生命維持に関わる生理機能の仕組みについて、細胞の働きから各器官(臓器)の機能を通して学修する。主な学修内容は「細胞の生理機能」「末梢神経系と中枢神経系」「筋・腱系」「体性感覚・特殊感覚系」「血液系」「循環器系」「呼吸器系」「腎臓と排泄機能」「消化器系」の生理機能である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる生命活動やその維持機能に関して科学的視点からの深い洞察力を身につける。	
	生理学Ⅱ	人体の生命維持に関わる生理機能の仕組みについて、細胞の働きから各器官(臓器)の機能を通して学修する。主な学修内容は「内分泌系機能」「代謝と体温」「生殖と発生」「成長と老化」「運動生理」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる生命活動やその維持機能に関して科学的視点から深い洞察力を身につける。	
	生理学実習	生理学で習得した生体の生理機能について理解を深めるために、主として正常人を対象とした実験・実習を行う。実習テーマは、「①血圧・心拍数の測定1」「②血圧・心拍数の測定2」「③腎機能の実験」「④皮膚感覚と深部感覚の測定」「⑤浸透圧の観察」「⑥消化液の作用」である。	
	人間発達学	人間は、環境と絶えず相互作用をもちながら成長・発達し続け、変化している。そこで、ヒトの誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのように発達していくのか、またどのような要因が発達に影響を及ぼすのかについて学習する。人間が生まれてから青年期までを中心し、その成長発達を身体機能、心理機能、社会的機能の各側面から情報収集・分析をするとともに、成長発達を理解するうえで役立つ理論についても学習する。	
	基礎運動学	身体機能の改善を目的として作業療法を実践する場合、作業療法士は、身体機能を構成する運動の仕組みを理解しておく必要がある。そのための運動学の総論として、運動の力学的な観点、運動に必要な筋・骨格系、神経系、姿勢、歩行について理解すること、また、臨床における作業療法実践の視点から運動学、運動力学の基礎的な知識を整理し、知識を深めることを目的とする。	
	基礎運動学演習	基礎運動学で修得した内容を、様々な機器を用いて科学的に検証する。具体的には、臨床において作業療法の対象となる「基本動作」を構成する関節運動、また各動作の開始姿勢となる立位や座位などを題材として取り上げ、筋電図、重心動揺計などを用いて様々な視点から客観的な動作分析を行う。またこの演習で用いる測定機材に関して、その使用目的や使用方法について一通りの理解を得ることも目的となる。これにより今後臨床において生じる様々な疑問を自ら解決するために必要不可欠となる臨床研究能力の基礎を修得する。	
臨床心理学	臨床心理学は心理学の中でもその人のこころの悩みや葛藤等、こころのメカニズムや病を理解し、問題解決を図ろうとする実践的な学問である。患者の病気や障害の発症、経過、治療の効果、予後がその病気の器質的・機能的な問題だけでなく、心理・社会的要因が関与していることが多い。実際の事例を通して、必要な対人活動の知識と臨床心理学的アプローチの方法を学習する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 専門基礎分野科目	臨床医学概論	<p>(概要) 次世代の地域住民の健康増進を目指すには、まず医療の歴史と日進月歩する現代医療の全体を理解することが重要である。そのうえで、一般的医学的行為とそれに関連する専門知識の習得が求められる。本科目では、一連の一般的医学的行為の内容とその意義、診断の目的と手順、所見とカルテ記載、疾病の診断、治療方針の決定と効果判定、疾病の予防、救命救急、薬理作用について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (② 西本裕/6回) 1, 2, 3, 4, 5, 6回 一般的医学的行為の歴史と概要その意義について学ぶ、診察の目的、医療面接を含む診察の手順について学ぶ、所見の取り方、カルテの記載について学ぶ、疾病の診断、治療方針の決定、治療効果の判定について学ぶ、疾病予防の意義および予防医学の基本について学ぶ、救命救急とバイタルサインの基本について学ぶ (66 仙田典保/2回) 7, 8回 薬理作用と作用機序、生体活性物質と薬物について学ぶ、各疾患治療薬の薬効と副作用、薬と法律について学ぶ</p>	オムニバス方式
	病理・感染学	<p>病理学は病気の成り立ちを探究する学問であり、疾病と症候の意義や分類、病因等について理解する。正常な細胞や組織、器官の形態や正常な生体機能が障害によってどのように変化するのかを学ぶ。また炎症や感染による疾患や感染経路と病態微生物が身体にどのような異常を引き起こすことになるのか、診断・治療への大きな役割を担う科目であることを学ぶ。</p>	
	整形外科学	<p>リハビリテーションを学ぶ上で必要な運動器の障害について理解する。整形外科的な外傷、疾患について、病因、経過、診断法、治療法について学ぶ。姿勢の保持、運動に関わる身体的な変化をとらえ、治療による回復過程について学ぶ。</p>	
	神経内科学	<p>神経内科は脳や脳幹、脊髄、末梢神経、各種感覚器等、広範な脳神経系に起きるすべての診断と治療に関わっていることから、地域包括ケアを活用する患者が増えている。よって神経系の解剖や生理学を復習したうえで、理学療法士や作業療法士が深くかかわる主要疾患について、その概念や疫学、症状、治療、検査等について系統的に学習する。</p>	
	老年医学	<p>超高齢社会である現在、健康な高齢者や障害のある高齢者がQOLの維持・向上を図るために、幅広い視点から支援していくための知識が望まれる。老年期を理解するために、加齢に伴う生理的变化を学習し、老年期に特徴的な疾患や障害と生活への影響について、疫学、予後、病態等について学習する。さらに、我が国の高齢者を支援するための地域の取り組みや国の制度についても学習する。</p>	
	精神医学	<p>現代社会の中でストレスを抱えて入院する患者が増えている。高齢化や身体合併症の罹患等により活動意欲の減退、体力の低下、肥満等の問題を起す。身体運動量の低下は欲動の低下や引きこもり、うつ状態、痴呆、意識障害等を引き起こし、治療の阻害因子となる。よって精神疾患や精神症状のある対象に対して理学及び作業療法士の介入を必要することから、病態や治療等について学習する。</p>	
	内科学	<p>疾病論を学習する上において、まず専門基礎科目で学習した解剖学、生理学、生化学および薬理学等を復習することが大切である。そのうえで臨床現場においてリハビリテーション療法を必要とする内科疾患の病理的背景や概念および回復、内科的治療、検査、検査データの解釈、予防等の基本的知識を学習する。</p>	
	小児科学	<p>小児は出生から思春期に至るまでの発達段階において、さまざまな疾患や発達障害を生ずることがある。その障害が児のその後の人生に影響を及ぼす可能性があることから、リハビリテーションは重要な社会復帰支援となる。小児疾患とその治療などについて理解しなければ安全な医療を提供することができないことから、小児の成長発達過程やリハビリテーションの対象となる疾患の病態や症状、治療、予後について学習する。</p>	
臨床検査診断概論	<p>(概要) 理学療法士および作業療法士が多職種連携における医療専門チームの一員として活躍するためには、カルテの共通理解は必須であり、臨床検査および画像診断の基本的理解は不可欠である。臨床検査の診療に占める重要性は年々増大しており、画像診断はリハビリテーションの評価治療には欠かせない情報である。本科目では、このような重要性を踏まえて、臨床検査および画像診断の基本を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (79 畑忠善/5回) 検体検査の意義、種類、臨床的役割について学ぶ、一般的臨床検査(尿便・血液・体液を中心に)について学ぶ、生化学検査の基本を学ぶ、免疫学、微生物学、病理検査の基本を学ぶ、呼吸機能、心機能および神経学的検査の基本を学ぶ (② 西本裕/3回) 頭頸部の画像診断の基本を学ぶ、内臓の画像診断の基本を学ぶ、脊椎・脊髄・骨関節・軟部の画像診断の基本を学ぶ</p>	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床栄養学 1	臨床栄養学を学ぶ目的は、様々な疾病の発症や治療、その予防のために栄養や食事がどのように関与しているかを理解し、その知識を疾病の治療に生かし、個々に適した栄養状態の改善を考慮した実践的な栄養・食事療法の技術を修得することである。リハビリテーションにおいて、その効果を最大限発揮するには適切な栄養管理が行われていることが不可欠であり、心身機能の回復や維持に栄養・食事療法は大きな意味を持つ。本講義では栄養療法が特に重要な疾病を中心に、リハビリテーションを実践する上で必要な臨床栄養学の基礎知識を理解する。		
	災害医療	概要) 近年、地震や豪雨等の自然災害、感染症パンデミック等により救急医療の必要性が増している。リハビリテーションに従事する療法士も医療現場にかかわる重要な専門職として、災害時において医療的役割が求められる。災害を被った患者を支援する一員として、災害医療や救急医療、救急患者の特徴や具体を理解するとともに、自身の役割を学習する。 (オムニバス方式/全8回) (54 加納秀記/6回) 災害医療、救急医療体制の基本骨格を学ぶ、自然災害時の主要な疾患の病態を学ぶ、パンデミックになり得る主要な感染症の病態を学ぶ、救急疾患の診断と治療法の基本について学ぶ、救急処置の基本を学ぶ(心肺蘇生)、救急措置の基本を学ぶ(火傷・熱傷、止血、患部固定) (72 中島久元/2回) 災害時のリハビリテーションの役割を学ぶ、災害時のメンタルケアについて学ぶ	オムニバス方式	
専門基礎分野科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	(概要) 理学療法士や作業療法士を目指す学生は、リハビリテーションに従事する療法士が単に疾病や怪我等に起因する身体機能障害の回復を目指す職種であると捉えるのではなく、対象者の尊厳を尊重した「全人的復権」を図る医療専門職であると理解する必要がある。本科目では、現在に至るまでのリハビリテーションに関連するトピックスを交えながら、リハビリテーションの理念、生活障害と自立した生活の再獲得に向けた支援の在り方、社会保障の基礎も踏まえ、リハビリテーションについて多面的に理解することを目的とする。 (オムニバス方式/全8回) (2 竹田徳則/4回) 全人的復権、リハビリテーションの理念、ノーマライゼーションについて学ぶ 国際生活機能分類 (ICF) について学ぶ 作業療法とリハビリテーションについて学ぶ リハビリテーションと社会保障の基礎について学ぶ (② 西本裕/3回) 国内外のリハビリテーションとその歴史について学ぶ リハビリテーションの流れとチームアプローチについて学ぶ 医学的リハビリテーションについて学ぶ (18 齋木しゅう子/1回) 理学療法とリハビリテーションについて学ぶ	オムニバス方式
		生命倫理学	生命倫理学は生命科学や医学の進歩がもたらした新しい倫理問題を探求する学問である。この生命倫理の発達によって医療現場で大きく変化した実践は「インフォームドコンセント」と「個人情報の保護」である。選択の自由の権利、情報を得る権利、自己決定の権利、機密保持を得る権利等の基本的な考え方を学習するとともに、他の人との会話から医療職者としての姿勢や考え方、人間性、感性と価値観を学習する。	
	公衆衛生学	個人だけでなく、地域住民・組織の構成員など集団を対象とした予防医学、健康の保持・増進を図るための理念やその対策について学習する。人間集団を対象とした環境整備、疾病の予防、健康管理、感染症の予防、食品衛生などの制度や対策などについての理解を深め、生活の質向上への支援が実践できる基盤となる知識を修得する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	<p>(概要) チーム医療の重要性を伝えるIPE (Interprofessional education; 専門職連携教育, 関連職種連携教育) の実践として、医療・福祉領域に携わる職種とその役割を理解し、対象者の状況を的確に把握し対応した医療・介護サービスの提供のため、関係する各専門職が目的と情報を共有し、業務を分担しつつも、互いに連携・補完し、連携を図りながらの協働について学ぶ。専門職の職務の役割や責任、チームアプローチのモデル、病期別のチームの機能と課題、チーム力を高めるコミュニケーションのありかたについて学部合同のグループ討議による事例への対応等を講義や演習を通して学ぶ。本授業は、3年前期開講科目であり、臨床実習Ⅲ (評価実習) を経験する学生が臨床現場での実践につながる授業となる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (31 盛田麻己子/2回) 日本の保健医療福祉制度における専門職の種類と役割を理解し、チーム医療の理念と実際について学ぶ。また、チーム医療における看護職の役割と責任について考え、チーム医療の効果や課題について概説する。 (40 渡邊潤子/2回) チーム医療における理学療法士の役割を説明し、チームアプローチのモデル、身体・活動面の視点から病期別のチームの機能と課題について概説する。 (7 山下英美/2回) チーム医療における作業療法士の役割を説明し、ICFの視点から病期別のチーム機能と課題について概説する。 (12 新井信之/2回) 対象者への基本的対応をグループワークを通し検討する。また、グループワークにおける望ましいコミュニケーションや取り組み方を修得する。</p>	オムニバス方式
	保健医療福祉制度	<p>日本における保健・医療・福祉行政の理念と法制度、社会資源について学修する。具体的には社会福祉の概要や介護保険制度、権利擁護さらに、住民の基本的人権としての権利「健康」をサポートするために、地域保健法や医療保険制度、医療法、難病法、母子保健法、障害者に関する法律など、公衆衛生やヘルスプロモーションなどによる地域づくりとそれを行なうしくみについて理解を深める。 特に近年進められている社会保障制度改革から、地域包括ケア、地域医療構想など保健・医療・福祉行政分野の喫緊の課題についても詳しく学ぶ。</p>	
作業療法専門分野科目	基礎作業療法学	<p>(概要) 作業療法の専門的学びの導入として、作業の意味や教育体系、他職種との連携、一連の評価治療の過程や各領域の概略、EBMの重要性を理解することを目的とする。また、生活モデルを基盤とした作業療法を展開するうえで重要となるICFを用いた評価ができるための基礎を理解することを目的とする。 授業は講義に加えてICFを用いた評価プロセスの体験、車イス操作の体験、作業療法の実際を聴講できる機会を織り交ぜて展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (③ 中西康祐/8回) 作業とは何かを理解する、ICFの基礎を学ぶ、ICFの活用方法を学ぶ、生活の困りごとをICFで整理する作業療法の変遷について学ぶ、作業療法の教育、倫理、多職種連携について学ぶ、作業療法を取り巻く医療福祉制度を学ぶ、老年期障害に対する作業療法の概略を学ぶ (6 山鹿隆義/6回) 生活モデルに基づく作業療法の概略を学ぶ、EBMと作業療法について学ぶ車イスの機能を理解し操作する、身体障害に対する作業療法の概略を学ぶ、精神障害に対する作業療法の概略を学ぶ、発達障害に対する作業療法 (57 工藤啓介/1回) 作業療法の実際を学ぶ</p>	オムニバス方式
	基礎作業療法学	<p>作業療法において中心となる「作業活動」について、作業とは何か、作業の分類、治療的要素としての作業とその遂行に及ぼす要因、さらに作業を行う主体である人と作業の関連について、身体機能、精神機能、ライフステージ等の視点から学ぶ。また、作業分析の方法や、作業活動を中心としたアプローチである生活行為向上マネジメントについて学び、作業療法において、作業活動を用いる意義を理解する。</p>	
	基礎作業療法学演習	<p>本科目では作業療法の治療手段である「作業・活動」について理解する。作業を治療的に活用するためには作業がもつ特性を理解する必要がある。授業では実際に作業を経験し各種活動の基本技術を習得する他、その作業を分析することで作業活動に含まれる生物的・心理的・社会的、文化的要素について理解する。そして、作業がもつ身体的・精神的効果を作業療法として治療的に活用するための作業療法のプロセスと作業活動の選択について、グループワークを通して理解を深める。</p>	
	研究法概論	<p>本科目では、4年次で取り組む卒業研究につながる論文種別を知り、研究の基本とその必要性や意義、研究の進め方と各種研究種別及び研究計画書の構成、研究の取り組みに必須の研究倫理について理解する。臨床実践を基本とする作業療法士がその成果を職務上チームを構成する多職種にとどまらず、作業療法対象者と社会一般に向けて発信していくためには研究力を備えることが望まれており、作業療法研究法ではその基礎を学修する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
作業療法専門分野科目	基礎作業療法学	<p>(概要) 本科目では、3年次前期で学んだ作業療法学研究法を基礎として、データ収集に用いられる調査票と各種データ分析に必要な基本統計を理解する。そして、作業療法卒業研究で取り組む実行可能な研究計画書を文献レビューを重ねることによって作成する。この過程を通じて作業療法の科学的根拠の基盤を構築する専門性を身につけることができる。</p> <p>(オムニバス/全15回) (2 竹田徳則/10回) 1～2回 調査票の構成、調査の進め方、8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 (6 山鹿隆義/13回) 3回～7回 基礎統計の理解、8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 (5 藤田高史/8回) 8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 ① 木村大介/8回) 8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 ③ 中西康祐/8回) 8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 (7 山下英美/8回) 8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 ④ 浅野克俊/8回) 8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 ⑤ 池谷政直/8回) 8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。 (10 埴杉子/8回) 8回～15回 文献レビュー 研究計画書作成を目標とする。</p>	共同
		卒業研究	3年次作業療法学研究法演習で設定した研究計画書を再考して、データ収集、データ分析を行い報告資料と論文を作成し、研究成果のプレゼンテーションを行う。この過程を通して研究手法を修得するとともに探究心と理論的思考を深めることを目標とする。
	作業療法管理学	将来、作業療法士免許を取得し職業人として、働く場合に必要となる作業療法業務関連の制度や業務内容、管理、運営について理解することを目的とする。授業は講義に加えて課題提示による主体的学習の機会を提供して展開する。	
	作業療法評価学	本講義では、作業療法評価の基礎的知識やICFの基本的な使い方を身に付けることで、作業療法評価の基礎について理解することを目的とする。	
	作業療法評価学演習Ⅰ	身体の構造・機能の評価について、その理論と概要、検査・測定手技、評価方法等を学習する。具体的には、解剖学、生理学、運動学等の基礎を踏まえて評価の意味・目的等を学び、実際に検査・測定手技を実施できるように学生同士による演習を通してその技術を身に付ける。	
	作業療法評価学演習Ⅱ	<p>(概要) 本科目は精神機能作業療法評価に関連した基本的知識、技術、態度について習得することが目的である。観察・面接・各種検査法/測定法を学生間で実際に行うことで、対象者に適切に評価を実施できることを目指す。また評価者自身の特性を自己分析を通して理解し、自己の治療的応用の視点を学ぶ機会とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ③ 中西康祐/8回) 精神機能作業療法における評価の概要について学ぶ、作業をもちいた観察評価・面接評価について学ぶ(構成的作業面接・投影的作業面接)、問題基盤型学習(PBL) 疾患の特徴・事例の特徴についてグループで話し合う、問題基盤型学習(PBL) 事例への作業療法評価計画についてグループで話し合う、問題基盤型学習(PBL) 立案した作業療法計画をグループ毎に発表し全体で討論する、高齢期の精神的・心理的特徴を理解し関連した評価について学ぶ、認知症重症度・行動症状等の評価について学ぶ、高齢期のADL関連の評価とその技法について学ぶ ⑤ 池谷政直/7回) 自己の治療的応用に向けて自己の特性とその影響について学ぶ、質問紙を用いた面接について学ぶ (ISDA・SMSF・生活形態の評価)、精神症状評価とICF分類について学ぶ、日常生活行動評価とICF分類について学ぶ、QOL・興味・役割の評価、集団/対人交流技能の評価について学ぶ、認知機能評価尺度/家族・社会的環境の評価とICF分類について学ぶ、精神障害者ケアアセスメント(日本作業療法士協会版)について学ぶ</p>	オムニバス方式
	作業療法評価学演習Ⅲ	臨床医学ならびに作業療法評価学演習Ⅰと作業療法評価学演習Ⅱで学習したことを踏まえて、疾患別の作業療法評価を学ぶ。演習では、事例を通して作業療法計画を立案し、画像所見や検査・測定された値を解釈し、障害像をまとめる力を養う。	
	作業療法動作分析学演習	日常生活活動の改善を目的とした作業療法を実践する場合、作業療法対象者の動作を理解できなければならない。そのためには、健常者の日常生活活動に関する動作や疾患特性の影響を受けた動作の理解が不可欠である。本講義では、基礎作業学、人間発達、解剖学、運動学で学んだ知識を基に健常者の起居移動動作、移乗動作、立位動作、セルフケア、家事動作について演習を通し、分析的視点を習得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
作業療法評価学	作業療法学総合演習Ⅰ	これまで学んできた専門知識を横断的に整理し、生活モデルを基軸として、ICFを用いて生活障害に対する評価の思考プロセスを習得する。授業は事例基盤型学習を中心に進められ、心身機能・身体構造、活動、参加、環境・個人因子と生活障害の関連の理解、および評価計画の立案から治療目標の設定までを学習する。	共同
	作業療法学総合演習Ⅱ	作業療法学総合演習Ⅰで学んだ評価の思考プロセスの基本を踏まえて、さらに事例検討を通して治療プログラムの設定まで検討し、体系的な思考プロセスを深化させる。また、これまで学んできた専門知識や技能を体系的に整理し、評価測定・介入の基本を正しく実施できることを目標とする。	共同
	身体障害作業療法学Ⅰ	身体機能の改善を目的とした作業療法を実践する場合、対象者の心身機能の評価法を理解したうえで、適切な治療法を選定しなければならない。本講義では、身体障害領域の中核疾患を中心とした作業療法評価を理解したうえで、中核疾患の特徴に合わせた作業療法治療法を選定し、実践できるための知識・技術を学ぶ。さらに、事例を通じて、より実践的な身体障害領域の作業療法治療法の知識・技術を深める。	
	身体障害作業療法学Ⅱ	(概要) 身体機能の改善を目的とした作業療法を実践する場合、対象者の心身機能の評価法を理解したうえで、適切な治療法を選定しなければならない。本講義では、身体障害領域のハンドセラピーを含む整形疾患を中心とした作業療法評価を理解したうえで、整形疾患の特徴に合わせた作業療法治療法を選定し、実践できるための知識・技術を学ぶ。さらに、事例を通じて、より実践的な身体障害領域の作業療法治療法の知識・技術を深める。 (オムニバス方式／全8回) (67 竹中孝博／4回) 手外科領域の作業療法介入について学ぶ。具体的には手の骨折や屈指腱・伸筋腱損傷、末梢神経障害などの基礎知識から評価、介入までの一連の流れで学ぶ。また解剖学的根拠を理解した上で各疾患の特徴や症状、評価や治療の基本的な考え方を他者に説明できるまで理解することを目標に学修を進め知識の定着を図る。 (① 木村大介／4回) 骨・関節疾患の作業療法介入について学ぶ。大腿骨頸部骨折、上腕近位部骨折、橈骨遠位端骨折、圧迫骨折など骨折の代表的疾患の基礎知識から評価結果に基づき導き出される作業療法治療計画を実践する介入手技について修得する。	オムニバス方式
	身体障害作業療法学演習	身体機能の改善を目的とした作業療法を実践する場合、対象者の心身機能の評価法を理解したうえで、適切な治療法を選定しなければならない。本講義では、事例を通じて、より実践的な身体障害領域の作業療法治療法の知識・技術を深めることを目的とする。	
	義肢装具学	義肢装具学では、義手・義足・上肢装具・下肢装具・体幹装具についてそれぞれ定義、目的、力学、評価、適応、チェックアウト、装着訓練、操作訓練などについての基礎的知識を学ぶ。解剖学や運動学の知識が基礎となる教科であり、これらの基礎的知識を再確認しながら義手と義足、上肢装具と下肢装具の導入から訓練に必要な一連の知識、技術を習得することを目指す。講義はグループディスカッションやディベートを一部用いて他者に説明できるまでの知識を目指し、臨床に必要な知識、技術を習得する。	
	義肢装具学演習	義肢装具学演習では、主に上肢装具と下肢装具の構造や特徴について学ぶ。上肢装具についてはスプリント療法を中心に、評価から採型、チェックアウトまでの一連の過程について、熱可塑性プラスチックを用いてスプリントの作成を行い技術の習得を目指す。具体的には代表的なスプリントの作成を行い、その過程での失敗を記録し、その経験を作成に生かせるような体験を行う。また他人の手を借りて作成することで、他者と確認しあいながら知識技術を深めていく。義手義足についてはその構造と種類、機能、特徴、適合等について模擬義手や模擬義足をを用いた実習を通して理解することを目標とする。	
	精神障害作業療法学	精神障害作業療法学では、わが国の精神保健医療福祉の歴史的背景と作業療法の変遷を理解し、作業療法士が取り組むべき課題について学ぶ。また精神障害作業療法領域で主たる対象となる統合失調症、気分障害、神経症性障害、アルコール依存症等の疾患・障害特性を学び、作業療法の治療構造に基づいた作業療法技法の基本を習得する。	
	精神障害作業療法学演習	精神障害作業療法学演習では、疾患別、障害別の捉え方と必要な観察を含む評価と課題整理、目標設定とプログラム立案、実施について内容を深める。また、事例検討を通して、精神障害領域における一連の作業療法実践過程を学修する。そして生活障害に対する作業療法援助の方法と地域連携の取り組みを進めるためにアウトリーチの手法やそのマネジメント方法を学ぶ。	
	発達障害作業療法学	発達障害作業療法を展開するうえで必要となる人間発達学、小児科学、発達理論や発達課題、各種評価バッテリーなどの基本的知識を理解する。発達の正常、異常の見分け方や、各障害の特徴などについて学ぶ。生誕から乳幼児期までの原始反射や反応の出現と消失、運動発達(粗大・微細)や幼児期までの認知発達、社会性や言葉、遊びの発達などについての理解を深める。授業では臨床映像などの視覚的教材も活用して解説する。	
	発達障害作業療法学演習	模擬症例を通して、対象児(者)に合わせた評価計画立案、評価の実施、評価結果の解釈、問題点の抽出、治療プログラム立案、治療実施までの臨床的・リーディングが実施できるようになること。協業しながら積極的にグループワークを行うこと。また、発達領域における様々な理論/モデルや介入方法について学び、基本的な実践技術を習得すること。	
	作業療法専門分野科目	作業療法治療学	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
作業療法専門分野科目	作業療法治療学	老年期作業療法学	老年期の作業療法を展開するうえで必要となる生理学的・老年学的知識、評価スケールの概略、認知症の基本的知識を理解する。さらに老年期障害、特に認知症の作業療法に必要な治療介入のポイントを理解し、生活障害に対して支援する際の思考プロセスに効果的につなげられることを目的とする。授業は専門知識の教授に加えて、臨床映像などの視覚的教材も活用して解説する。	
		高次脳機能障害作業療法学	脳血管障害や頭部外傷によって脳細胞が損傷するとその部分の認知機能が障害され、高次脳機能障害の症状を呈する。その障害は生活活動能力や社会活動能力を阻害するため、リハビリテーション医療の対象となる。本講義ではその障害像を解剖学や生理学といった医学的専門知識と結びつけ、その症状に対応した神経心理学的評価や観察による評価を医学的根拠に基づいて選択できることを目的とする。また、高次脳機能障害の症状に応じた作業療法について理解する。	
		高次脳機能障害作業療法学演習	本講義では、リハビリテーション医療で対象となる高次脳機能障害の方への神経心理学的評価方法を習得し、臨床場面で知識と評価技術の統合を計り実践できることを目的とする。また、高次脳機能障害を要する方への作業療法介入方法について学び、チーム医療を念頭に置きながら具体的な作業療法計画を立てる。	
		日常生活活動学	リハビリテーション医療では、対象者の日常生活活動（ADL）能力を介入効果手段として重要視するなど、ADLはリハビリテーション医療において重要な概念である。本講義では、日常生活活動（ADL）の概念、ADL評価方法、ADL訓練計画の立て方とその進め方についての専門的知識を習得する。また、作業療法士が対象とする疾患に対するADLの考え方、障害特性に応じた評価と介入について理解する。同時に、コミュニケーション能力が低下した方に対しての人間性や倫理観に配慮した対応の仕方について学ぶ。	
		日常生活活動学演習	リハビリテーション医療では、対象者の日常生活活動に介入する。本講義では、日常生活活動介入の基本事項である基本動作（起居・起立・移動動作）と食事や排泄などのセルフケアに対して、障害が及ぼす影響とそれらの自立に向けた援助・介助方法について、専門知識と技術を統合して実践できるようにすることが目的とする。また、日常生活活動や関連活動への介助技術についても同様に実践できるようにする。	
		作業療法学セミナー	<p>（概要）本科目では、4年生後期までに学んだ専門基礎分野科目、作業療法学科専門分野科目について、内容の要点を整理するとともに、作業療法学全般について体系化して整理し、臨床における評価および治療の基本的技能に通ずる基礎として定着させることを目的とする。専門分野ごとに教員が担当するオムニバス形式の講義、および体系的理解に向けてディスカッションの形式も取り入れる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>③ 中西康祐／2回 オリエンテーション（授業構成の解説、到達目標に向けた学習の再確認）</p> <p>老年期作業療法に関連する知識の要点を整理し体系化して理解する （2 竹田徳則／2回）</p> <p>基本的な作業療法学に関連する知識の要点を整理する 基本的な作業療法学を体系化して理解する （5 藤田高史／2回）</p> <p>高次脳機能と作業療法に関連する知識の要点を整理し体系化して理解する 生活障害に関連する知識の要点を整理する ① 木村大介／2回</p> <p>運動機能と作業療法に関連する知識の要点を整理し体系化して理解する 身体障害作業療法学に関連する知識の要点を整理する ④ 浅野克俊／1回</p> <p>身体障害作業療法学を体系化して理解する ⑥ 山鹿隆義／2回</p> <p>生活障害全般に関連する知識の要点を整理する 生活障害全般に対する作業療法を体系的に理解する ⑦ 山下英美／1回</p> <p>地域作業療法学に関連する知識の要点を整理し体系化して理解する ⑤ 池谷政直／2回</p> <p>精神障害作業療法学に関連する知識の要点を整理する 精神障害作業療法学を体系化して理解する ⑩ 嶋杉子／1回</p> <p>発達障害作業療法学に関連する知識の要点を整理し体系化して理解する</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
作業療法専門分野科目	作業療法治療学	<p>(概要) 改正学校教育法による特別支援教育の推進により、学校などの教育現場における作業療法士の関わりが増えつつある。また、地域で暮らす知的障害や発達障害、精神障害の人の「働くこと」に対して、作業療法士が支援する機会も増えている。本科目では、このように作業療法士が活躍する新しいフィールドでの実際を紹介し、多様な活躍の仕方があること、および具体的な支援について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (10 埴杉子/3回) 第1, 2, 3回 学校教育へのかかわりの歴史的背景、概略を学ぶ、教育現場における作業療法について学ぶ、学校教育に対する作業療法士のかかわりについて学ぶ (60 櫻井聡/1回) 学校・地域における作業療法支援の実際について学ぶ (5 池谷政直/3回) 第5, 6, 7回 地域での就労支援を支える社会資源について学ぶ、地域の就労支援サービスの形態について学ぶ、地域で働くことを支援する作業療法士の役割について学ぶ (64 杉村直哉/1回) 第8回 就労にかかわる作業療法支援の実際について学ぶ</p>	オムニバス方式
		<p>(概要) 日常生活に支障をきたした状態にある方が、福祉用具やアシスティブデバイスなどの支援ツール、筋電義手の活用や、住宅改修やユニバーサルデザインなどの環境の工夫によって、生活の不便さがどのように改善するのか理解することを目的とする。臨床の実際場面や支援ツールの紹介に加えて、日常生活における環境の工夫を発見し発表する機会も設ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (3 中西康祐/6回) 第1, 2, 5, 6, 7, 8回 日常生活の不便さを助ける代替手段について学ぶ、ユニバーサルデザインについて学ぶ、福祉用具の実際について学ぶ、住宅改修の実際について学ぶ、ユニバーサルデザイン(街なかの暮らし)の課題を発表する、ユニバーサルデザイン(身のまわり)の課題を発表する (6 山鹿隆義/1回) 第3回 BMI (Brain Computer. Interface) について学ぶ (73 野口智子/1回) 第4回 筋電義手の基本と活用の実査について学ぶ</p>	オムニバス方式
		<p>内部疾患の作業療法の概要、評価方法、治療法、リスク管理、終末期における対応方法を学習する。少人数グループに分かれて、内部疾患を持つ模擬事例を検討し、作業療法に必要な知識と評価方法及び治療法の注意点やリスク管理方法の理解を深める。</p>	
	地域作業療法学	<p>地域リハビリテーションの背景と歴史を学び、それを支える制度・支援・連携について理解する。「地域作業療法学演習」や「臨床実習Ⅱ(地域実習)」との関連性も意識しながら、地域包括ケアシステムの中の作業療法の在り方について考察する。</p>	
地域作業療法学	<p>(概要) 地域におけるリハビリテーションサービスの実際について、実習の振り返りやフィールドワーク、当事者の講演を聞くこと等を通して、自らの経験と知識を結び付け、地域作業療法への理解を深める</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 山下英美/10回) 地域で生活を送る障害児(者)に関連する法制度や施策、高次脳機能障害や精神障害者等に対する就労支援等について、事例検討やフィールドワーク、当事者の講演を聞く等を通して理解を深める。自らの住む地域の資源を把握するとともに、地域で求められる作業療法士の役割について自らの考えを述べる。 (4 浅野克俊/5回) 通所・訪問系のサービスに関して、「地域作業療法実習」での経験を振り返り、知識と統合し、地域作業療法の意義を理解する。</p>	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
作業療法専門分野科目	地域作業療法学	<p>(概要) 本科目では、要介護状態発生原因の割合が高い認知症に着目して、作業療法の特徴である作業活動を介入基盤とした、認知症予防に寄与可能な作業療法支援について学ぶ。作業療法を主とした非薬物療法による心理社会面と健康との観点から厚生労働省が進めている介護予防・認知症予防事業を理解したうえで予防的活動に向けた作業療法学の技術を活用する一次予防から三次予防における地域貢献と認知症の人と家族支援のあり方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (2 竹田徳則/5回) 予防重視型介護予防と作業療法との関連を学ぶ、認知症発症の危険要因と保護要因を理解する、認知症予防と作業活動(生活機能・社会参加)を理解する、認知機能低下と作業活動の関連を理解する認知症予防の実際を理解する (7 山下英美/3回) 認知症の人の残存能力に着目した作業療法の視点を理解する、認知症に対するケアの視点を取り込んだ作業療法と多職種連携を理解する認知症の人と家族を支えるための地域支援を理解する</p>	オムニバス方式
	臨床実習Ⅰ (見学実習)	<p>本科目は、初年次のEarly Clinical Exposure (早期臨床体験学修)としての意義を有している。リハビリテーション概論や作業療法学概論、基礎作業療法学などで修得した内容を踏まえて、実習施設の職員や対象者との関わりを通して、対象者の生活の困りごとに対する専門的支援の基本を見学して学ぶとともに、専門的コミュニケーションスキルを培う機会とする。また、作業療法士や他職種の業務の実際を見学することによって、専門職としての姿勢や職種の役割を理解する。さらに、実習を通して自己の課題の気付きを得る機会として、2年生以降の学修に生かす。実習前には、実習に必要な基本的技能の事前評価(実技試験等)を、さらに、実習後には実習で得た知識等の事後評価および報告会を行う(計2日間)。</p>	共同
	臨床実習Ⅱ (地域実習)	<p>本科目は、通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションでの作業療法を体験する実習であり、地域リハビリテーションに従事する専門職の技能と役割を学ぶ機会である。また、地域在住の対象者の健康増進および維持、さらに生活支援の実際と他職種連携のあり方についての理解を深める。地域在住の対象者の医療専門的な生活支援を経験するなかで、ICFによる生活障害の捉え方の基本を学ぶとともに、地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割の一端を理解する機会でもある。また、実習前には、実習に必要な基本的技能の事前評価(実技試験等)を、さらに、実習後には実習で得た知識等の事後評価および報告会を行う(計2日間)。</p>	共同
	臨床実習Ⅲ (評価実習)	<p>学生が実習施設のチームの一員として関わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で診療参加型臨床実習(以下、クリニカルクラークシップ:CCS)を主として行い、対象者の状態等に関する評価を実施し、作業療法の導入過程を実践する。また、作業療法を実施するにあたり必要な情報収集や評価過程を実施し、作業療法治療計画を考える基盤を築く。また、実習前には、実習に必要な基本的技能の事前評価(実技試験等)を、さらに、実習後には実習で得た知識等の事後評価および報告会を行う(計1週間)。</p>	共同
	臨床実習Ⅳ (総合実習)	<p>臨床実習指導者の指導を受けながら、作業療法の全過程を診療参加型での臨床実習を行うことにより、教科書文献的知識だけではなく現場での思考法(臨床推論法)や実技、診療上や学習上の態度も含めて、作業療法士としての能力を総合的に実践する。作業療法を実施するにあたり、対象者の障害像の把握を行い必要な情報収集とともに適切な評価を実施し作業療法計画を立案する。さらに、実際に作業療法の治療実践ならびに治療効果判定を行い、作業療法士としての基盤を築く。また、実習前には、実習に必要な基本的技能の事前評価(実技試験等)を、さらに、実習後には実習で得た知識等の事後評価および報告会を行う(計1週間)。</p>	共同
	臨床実習Ⅴ (総合実習)	<p>臨床実習指導者の指導を受けながら、作業療法の全過程を診療参加型での臨床実習を行うことにより、教科書文献的知識だけではなく現場での思考法(臨床推論法)や実技、診療上や学習上の態度も含めて、作業療法士としての能力を総合的に実践する。作業療法を実施するにあたり、対象者の障害像の把握を行い必要な情報収集とともに適切な評価を実施し作業療法計画を立案する。さらに、実際に作業療法の治療実践ならびに治療効果判定を行い、対象者の生活課題に合わせた指導の基本を実践する。また、実習前には、実習に必要な基本的技能の事前評価(実技試験等)を、さらに、実習後には実習で得た知識等の事後評価および報告会を行う(計1週間)。</p>	共同

名古屋女子大学

【令和3年度】

学部名	学科・専攻名	入学定員	編入学定員	収容定員
家政学部	生活環境学科	80	—	320
健康科学部	健康栄養学科	160	—	640
	看護学科	80	—	320

【令和4年度】

学部名	学科・専攻名	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
家政学部	生活環境学科	80	—	320	
健康科学部	健康栄養学科	160	—	640	
	看護学科	80	—	320	
医療科学部	理学療法学科	50	—	200	学部の設置 (認可申請)
	作業療法学科	30	—	120	
文学部	児童教育学科 児童教育学専攻	80	—	320	定員変更(△40)
	児童教育学科 幼児保育学専攻	120	—	480	定員変更(△40)

設置 →

定員変更 →

名古屋女子大学大学院

【令和3年度】

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員
生活学研究科 (修士課程)	食物栄養学専攻	6	12

【令和4年度】

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	備考
生活学研究科 (修士課程)	食物栄養学専攻	6	12	

名古屋女子大学短期大学部

【令和3年度】

学科名	入学定員	収容定員
生活学科	100	200
保育学科	第一部	300
	第三部	150

【令和4年度】

学科名	入学定員	収容定員	備考
生活学科	90	180	定員変更(△10)
保育学科	第一部	100	定員変更(△50)
	第三部	90	270 定員変更(40)

定員変更 →